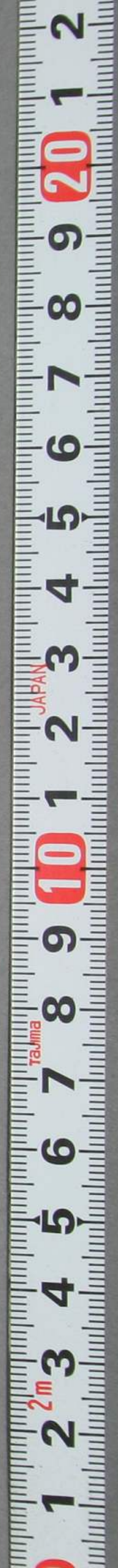


甲寅紀略

送

伊特
3382



伊
3382

鈴木苗軒名鐸字振道通稱字右忠門
水戸の藩士軍學者也征危言黃軒偶
記古射要錄劔甲新論神器要論等の
著あり此日記は安政元年の事記す

甲寅紀畧

寅二月四日淺草

黃軒主人著



二月元日沖田繁太郎云旧冬十二月十五日

公邊南アリ諸候方五人斗任官アリ之由中ニモ

細川侯毛利侯松前ノ思召ヲ以テ三奉道具

用ニ成ニ存立花侯侍從各々浦賀奉行

井戸石見守殿井戸播守大目付各々井戸美作守浦賀奉行

行々竹南

一回方回苗三云去ル晦ノ如江凡ヨリ早奉



元日一役はをかりて六三六日船後舟をり
経便しり扱方より先世に事 公道に事
右の事大泥り事 出雲の事 本末に後事
く事ハウ事馬を事しモ礼斗 事と事
の由あり

凡説に他之諸候ハ其ノ事在方ノ事
其ノ由ノ事ハ事ノ事名事ト事ノ人ノ指

事ハ事ナリ

一 曰人云 去年薩州にて死罪ノ者ハ 甲申日ヲキセ鉄

砲ニテ打シニ母見タルハ早死ニ義通信家等ノ
公ヨリ試シ 着ヤニ者玉ハ母見サレ氏頭割テ暫時勞
痛シ死ト云サシハ甲申ハ益ノ物ト云ル由

鐸云 都テ甲申ニ限ラズ試シハ無用ノ
刀鋌類タヌモ柄ルカト無用ナリ 櫓ニ白
キカアラハ試シ見ルハシ

一 鐸云 二日ハ細谷の矢場ニテ大砲数發アリ
三日ハ引通館の矢場ニテ右同クナリ

一 四日ハ云 野江様 田々六ノ日ノ事 櫓ノ事

助之権渡袍
二報テ品ナリ
馬房也
存也 而又イツナリヤ
南君様ハ應斗目

一 曰人云 昔々 加賀 藤ノ次 仙意 及 南君
云 物地 成リ 改メ 江ノ森 (向ノ) 豊城 此ノ 虚説

様ノ 知リ 事方ノ 及 助之 様ノ 不知ハ 故ニ 云
二 引江 而 南 虚説 云 (江ノ森 所ノ) 虚説也

一 曰人云 去年 中ノ 秋上 降砲 至 丑 異聞
二 報テ
以 後 持方 天 皇ノ 元ヨリ 一 河 南 年ヨリ 始メ 云

一 曰人云 西リ 元日 晴天ニ 七ノ 陰雲ニ 帝ハ 七歳

不徳ト 沙尔 当年 年六才ノ 末 廿六 年
試見ス ト 老人ノ 法 塔ノ カラス

一 二月 廿日 晴 雨 翌日 尚 分セ 及 年々 云々

是ハ 秋砲 一 枚 也 云々
ノ 報ニ 非ス
日ハ 登城 云々
ノ 報ナリ
或人云 先
二 年 及 列
日ノ 登城
アリ 其ノ 報
二 未云 二 後

一 今年 糧 五 千 俵 云々
ハ 老 中 助之 様 前 中 御 之 様 在 於 此 所 也

此方ハ 兵 隊 物 々 云々
二 未云 二 後
此方ハ 兵 隊 物 々 云々

一八分お柴田易の間 本林寺の事、後 来泊云去年六月

中尾人伝来ノ事 書簡詰之小屋 此寺二舟 中尾

浦賀西人
五百俵

浦賀奉行 高伊豆 井戸石見守 兩人上着甲将机に掛り小屋

外左右諸家臣固ニカタム浦賀奉行、兩人ハ依首

英人商
夷人以下

ニテ前後頭ヲアケス是人モ一見セズト思何ッヤ 蘭船ヲ見

共遠見シ涕泣セルト思ヒ大笑ストカレハ大勢異人ノ

内ヨリ十間前失立テ井戸ノ前低頭シ云此等ノ見

覚ハモアラシキ年ノ時立ニ因流書セシ久ニテトヤ者也

船ニ追放ニナリ又重追放ニナリ日ハ自身ノシキ処ナリ長

崎ハ多ク蘭人ノ使リ蘭船ハ五年来リ和蘭ハ多ク三年

前往物ニ由テモ此ノアソリカハ多ク上宮ニ撰ハシ

依船ノ役ニハ之ノ如ク云々交易船ニ物ハ好ク為ル

内多ク此ノ事付依船ハ作ラズモ交易ハ所ニ如ク

ト云フニ川路方ニシテ 井戸 考ナシト

鐸云右久ニテニ井戸中取ハセテ方モ共ニ交易ヨリ也

我船断ニ行カズ何トカウハ作アルニ然シヤ如ク承

知ナリ尤モ七分残ニシト是人互リニ跡ニテ名捕

テ知ナリ然ルヲ有セノ又考ナリ帰セシハ其方

臆スルノミナラス日本ノ耻辱は若ク及カシハ仁是ニモ
由ラス備日本浦賀奉行モ譯ナキ人日本ハ忍ビ是
ラスト来ル是人等ハ勿論アメリカ王迄招侮ノ本ナリ
今切書函ス氏益ナシ歎スヘシ

一旦書ヲ渡テ云東春ウ及書来ルヘシ其節ナ事ノ
日本國王ノ書ヲ守護ナレ成タケ遠沖ヲノラズ地
方ヲノリ及リタシ依テ此度近海ノ測量致シ度ト
アリシ時^{井戸}ハハ勝チト云シ由臆ニ招甚布ノミナラス
ウ耻辱彼カ輕侮ヲ先シ^ノ是人及リノ亦モ及ス跡ノ

残り交易ノ存始ノ如ク云ヒ及者ナレト

一 又是人女浦賀は^ノ勝子ニ上陸ノ時日本ノ百姓ヲ
皆市内^逃込シニ女一人軒ノ下ニ住リ^シテ居シテ
見付是人ニ来リ^樂シ^ノおよれ其女ノ夫守^ルル
桶ノ木丸太ヲ携^ルル二人^ノ是人ヲ打散シタルニ^銃附^ル炮
ヲ持カ^ラフ何シ^ハカ逃^去テニ度来^ラスト
^譯云^是其^等ニ
テモ^彼カ^戦ニ

拙^キヲ
シ^シ

一 又存板ハ細川彦持物ニテ^所陳^アリ^シニ是人女上陸^処ノ

横行^ル細川家ヨリ役人来^テ押^シニ^從ワサル^ル金

鼓ヲ正シ戦ヲ合ニ備フ進ナシヲ見呈人氏大ニ怒シ

直ニ志秘セシ由釋云可又ヒ交ハ出果ノ品海出島

呈人所キハ代官江州大ニウツ策ト云又呈人恆生

ノ時狂句何者力云之ホノ下デ昔ノ様カ齒カニス

ル釋云且西豆公朝鮮征伐ヲ云シ也

一又古崎村玉造村左カ方ハ江戸左カ方ニ至リ

カノ全ニ方々ニ至ル古崎村先ノ由カノ者江戸ノ下リニ

來ニ有ケルシ由江戸先カ右カ方ニ至リ七カ方ノ後

ニ全カ方ニ至ル隣家ノ者江戸ノ先カ方ニ至リ

ノ由カタルニ江戸モ不量ル沙カモナリ必ハ崎村

ノ物ニシ是ハ路限ニカスニシトモカノト候ニ尚今

モ不備家ノ者ノ由カ先ノ而カ方ニ至リ七カ方ノ後

ノ者追有同返ニ至ル途中カ方ニ至リ七カ方ノ後

急ニ追有同返ニ至ル途中カ方ニ至リ七カ方ノ後

カ方所カ方ノ入カ方川上ニ至リ七カ方ノ後

村カ方カ方ニ至リ七カ方ノ後

獨ニ返カ方ノ者自田フテニテ後カ方

決ニ全指シ者ヲ切リタレニ兩人待子者由切リシカ方

ノ者カ方ニ至リ七カ方ノ後

千石の量物トシ(既分乳ノ下ト)切下ケ下太刀
ニテ死し由切ニ者潮来青梅ノ御ヤニテ大金ヲツカ
イ内ホノヲカヒキ跡ヲ付シ如キ者ニ何トカイワシ
ワカキキニ其金ト何レカ以去リ今知シテ下此
ヲ切ニ者父間テ愁歎シ前ノ川(此浦ノ)ニ入テ死
セシ由サレハ若ハ人殺シ金下リ又父コシナリ後
江戸丸丸口邊セヨトイワスハ切ラシマシト云

一 又同人之去年夏船怪牛後在沙羅通悪ク諸
人船中ノ由控リシニ易者云昔薩州國在住ノ

称直^名常ニ勤俵甚ク大金ヲ斯レ一度又下
知ニテ薩州ノ琉球ノ役(イ)令アリシ時右称直堅
布(毛)種ヲ廣ク其上ノ金ヲ積ミ十分武備矣由
金入用ノ人ニハ皆恵ミシト内一士此恵金無事ニ
帰家セハ返金下シニ彼称直云兄今度ノ役生帰
ル気ニテハ君恩モシラス通モ欠^カヘシ然レハ金用立
ハナラズト云彼士我今度十分ニ働キ幸ヒ助命帰
家ノ時ハ及濟ト云也ト云ハ称直然シハ金田立
シト云シト是節俵ノ存意國恩ヲ知シ者ト称ス

一 又常州麻生ノ新庄龜次郎伊豆大島固ッノ遠所
 リト又此等安ク求入タリ武器類殊ニ甲冑ハ高價
 ニテ国恩モシラマ道具屋ニト話タルニ易簡云先年
 卯江戸ニ弗底ノ時ウ目附某店ニ乘卯入用ノ趣
 フイハ其者卯ハ江戸中切シ物ナレ四ツ有之丸ツ
 老分ナラデハ上乗ルト云ウ目附云藥物ニ用ル故求メ
 トキ両金出卯四ツ求直ニ卯湯ニ致サヤ用ヒ帰ル
 ヤ否其者召指ワレ并首ニナリシト云

一 九日不傳セ久飯云老セテ醫而師中俗解ト達九三
 代勤サレ者ハ頼ノ上俗解ニ滿ト云

一 十書老忠云親父孫ウ他本ノ刀二尺寸余名
 丸文字ノ云他(鑓)守斗アリテ盛シノ品又八町念仙ハ
 備前長船モリ先盛光守先長二尺六寸余白柄朱
 鞘系書ハ錫柄竹竿氏奈良安親トアル由ノ如先年
 兼淺瀆屋ノ貸入其後出セシ時柄竹竿無之ト錫ハカ
 アリ又朱鞘銀ニテ藤花小尻銀ノ大小曲豆ハヨリ
 賜ル品ノ由身ハ大小氏一文字助宗ト云此刀本二尺六
 寸余ノ如南隱居三木氏ヨリ
 美食子ニ床シス秘藏イタシ大小

氏刀筆コノヲ多ク擗上ニシテ此輩先祖護ノ俦ナシ

柄ハ卷替シト云外大永ノ祐之長三尺六寸余ノ
刀アリト外ニ具足ニ頌且ノ三傳来ト云

又毒年尚君与力久シウ鼻馬馬ハ雁大砲
リ報上リ報口也

城毎ニウ行例ハ加ふる先ハ帝也帝年名有白帳着用
ハお大莫大ト云フ

ニナル由

一 十三日夜法事云々持心新所
住居山崎忠次云此等以テカ

改アリともおらえる事モ改ノ改アリサスシハ悪キ刀ハセ

レメト云シヨシ

一 十有九年云麻生巻新巻
合と云る所ハ少キ

云具足甲
ナリ 函下函人氏 人士ヲ有テハ免
有カヤチアル甲由目也

ありと尤寄附命付けし丞五三人年居

甲由目山本米且有存五年ありし祝アリ

テ急キ遣シ由甲由目祝五集ヤ申の

み若とも指レシト又申付細川彦左衛

之娘長カ上達アリテと云アメリカ屋本

孫關ニモ及テカ陳々云

此考の難カク 上流と云る者下ノ十

八号自内^カ録カタヒラ口名申長刀勅ヲ
五橋^カ之向^カ玄米タワラ廿五侍積置タ
ルヲ急交見テ一告揚ルト長刀ヲ納メ礼
シテ彼儀不殘打面^カる^カ以^カ儀^カ下^カト申
引上候^カ近臣改シレ^カ右儀不殘^カ疾^カ附有^カシ
由^カ至^カ極^カノ早業也ト又此者^カ常^カニ十八^カ身位^カノ^カ録^カ帷
子^カヲ着^カシ居^カル^カアリト右^カニ^カ条^カ虛^カ説^カル^カケレト
聞ク^カ依^カテ^カ筆^カス

一十九日^カ海^カノ云^カ亞^カ米^カ利^カ幹^カノサ^カモ^カン^カ面^カ白^カク^カテ^カキ

タリ^カ写^カシテ^カ頼^カム^カト^カ依^カテ^カ写^カシ^カ遣^カス^カ其^カ文^カ

與^カ保^カ具^カ礼^カ申^カ士

ヤシ^カレ^カ強^カ動^カ也^カ来^カ抑^カ世^カト^カ呼^カラ^カマ^カテ^カ先^カ年^カは^カ方^カ唐
人^カサ^カワ^カキ^カテ^カ交^カ易^カ知^カ付^カ中^カニ^カヌ^カラ^カリ^カタ^カラ^カリ^カ返^カす
ラ^カス^カレ^カ故^カ弥^カ回^カリ^カリ^カ蓋^カニ^カ元^カ船^カト^カ茶^カニ^カシ^カタ^カ西^カ米^カ利
幹^カ君^カト^カ所^カ部^カ三^カ因^カタ^カ元^カ由^カ三^カ浦^カ賀^カノ^カは^カ是^カ處^カ切^カワ^カシ
為^カナル^カト^カ初^カノ^カカ^カラ^カ云^カタ^カニ^カ也^カ為^カ益^カト^カ勅^カ字^カ等^カリ^カハ^カ自^カ分
ノ^カ後^カ子^カ孫^カ人^カノ^カ也^カ也^カサ^カモ^カ梅^カワ^カフ^カ上^カ初^カ令^カヲ^カ取^カル^カノ
入^カラ^カマ^カト^カ也^カら^カも^カし^カつ^カと^カ也^カ云^カタ^カ揚^カ句^カハ^カ免^カト^カ出^カ掛^カル^カ素^カ捐

出子イノ酒宴ハナラマ。何ノカトテ以つて月々の
まろつと見ん大らつと見よの大なるまらも玉カナイト
を魂漸ク吐こが。時ニ書信同ハドウシタ譯キタも陳粉漢
粉ハ評議マナク。和解ハフゼイガクルリト廻テ一見シタ
トモドツナル物カヨ。文武トテ更サワケト時ニチンボヲサ
シタ同前ノヤイト云レシガユイ処ハ届クキ南モラ金カカフ。
ヤリハ伊勢カニトヲシタモシタヨ。此リ散シタハ隱居ロナンゾ
ヲ引張出シテイハキカアルカ。外ニ白人モイクラモ有フ。
江川如キノ上書ヲ取扱。咄カ首テ浦賀ニ指ワス。

白奥ノ先ナレ品川。白邊カハナゴコノ様ナレ入札ハ豊城ツ
ヤニツヤ梅ハタリトテヤウナル物カも地ノ利モ人ノ和スレ
モシカスト。孔子ノ口知惠モ云タテナレカ。増テ甲府
ハ口開キナトハ。言語同断勿解ナレ。咄シモナラチ
イ大病共士。有傷をテモムをテモ。面白ヲカシク時
ソ文句モヤツタラヨカロシ。越中フシトシ古切ナントラヒチク
リ出シタゴホモテ文句ナヤ今ノ浮世ハ中。イカ子イ。梅テ
押イテ徳テツケル金錢ナシハハ儀以ヤテドウデ
モナル事。徳ハ元也財ハ末也。ワリハ梅も我終サラ

リト止ミシ。五帝ヲ守リテ其身ノ業ヲ正シ息
ヲ尽セハ元ヨリ其キ日本ハ神國アリカラロシヤノ迷カ
立ツ物カヨ。急ト吹ク神風神風

一 同人又云此四文字ハ至テ為クは字ヲ祛^{タメト}入ケハ矢
玉ニ中ラズ此等諸人多ク用ルト依テ寫ラテ頼ムト
寫シ遺ス其字ハ^{シヤクウツ}祛^{シヤク}祛^{シヤク}ノ四字也是上ノ
二字下ノ二字ヲ左右ノ祛^イレシハ矢玉ヲ除クト
素^{モト}獵子一ツ雉子ヲサシニ中ラズ近クテモ中ラズ
其鳥ヲ取テ見シハ右四文字ノカキタル^{板ノ上ニ}アリ

シト其後右字ヲ持タル者鉄炮ニテサシニ中ラスト
是ヨリ右ノ字入ク信用スト也詳ナルハ黄軒偶記ニ
出ス故爰ニ畧ス

一 十八日海島云去ル十四日十五日江戶ヨリ早^{ハヤ}来リ一
^{二十七日夜}早^{ハヤ}来ルト 今度アメリカ船九艘浦加貝^{ト云々}
髮結ニ多クリシニ床屋^ノ綱有之今度アメリカ船
浦賀^ノ渡来ノ如穂ナル容子ニ付一同不懸相慎ニ
火ノ元大切ニス^ト由也^{書付ヲ}福地政改^ノ取
新^ノ流^ノ今朝^日江戶^ノ登ル^ル未^タ也^{ナキ}
指南

ヤト云 午前四時頃也

次ノ書ハ志ナリ
ナリ
ナリ
ナリ

一十八日午後細頭小山田介セリ
一 本日午後細頭小山田介セリ
一 アメリカ船
一 紙ヲ出ス急キ

一 法向ハ是ニアメリカ船浦
一 先ツ徳

一 此ニアメリカ船浦
一 此ニアメリカ船浦
一 此ニアメリカ船浦
一 此ニアメリカ船浦

一 此ニアメリカ船浦

一 此ニアメリカ船浦
一 此ニアメリカ船浦
一 此ニアメリカ船浦
一 此ニアメリカ船浦

一 此ニアメリカ船浦

一 此ニアメリカ船浦

一 此ニアメリカ船浦

一 此ニアメリカ船浦

次ノ書ハ志ナリ
ナリ
ナリ
ナリ

とよまるを士の本ととまひし藤そりの狂
詩ノれ士の志業ニ非ス慎むし七文を紙シ
經暮久倒文句

奇妙頂来山下 七文ヲカシキ燈動文句と

俗字の質を金
貸置好録家ウソカ本トヨ
田舖ト云

カラウ江戸ハ不景元貸屋金カシテラリト止
諸人ノ難儀とらぐ。早ク濫ノ口遅クハ大変下人ガ
十人泥山フケタラ。諸人ノ難儀。金カアルナラ人元ハ穂カ。
下ガ富ナラ早那モ富マヌ。是ガ叶ハハアソリカラロシヤ

ハ何デモアル。是ガデキズ人。船ヨリ日本ノ燈動ガ
アブナイ。花ノ春風早ク前度ノ江戸ト吹セソ
コテ天下ハ茶平

雑謡

トトヤ人ヲミラロヌ。西里利伽ノ唐人カ浦賀ノ渡来ト

聞クヨリモ

ニトヤ不時ニ日本ハ大強キ大なる為ヲ饒立

ニトヤニテモ聞テモ武器類ハ勝手ニ高價我勝

四ツトヤセノ中不景元錢金ニ造リテ諸人ハ大難儀

オツトヤイツ迄エウシテ居ルモノカ云リトハタ上ミノ口指回
ヲ待ツガヨイ

六ツトヤ無理ニモ南スルトテモコウ云フ人々ガヤ
ムダナト

七ツトヤ何ハ氏アシス景元ハ唐人処チヤアルマシ
八ツトヤ矢張ハ江戸ハ江戸ラシクスルガ天下ノ口為メ
ナリ

九ツトヤコノヤ浦安ガ丈夫トテ日本ハ浮島大坂ハ
金銀宝ノアリトコロ

十トヤトウ一騒ガモ静リテ天下太平ヲ祝ヒマシ

大黒ダイコウ舞

大黒ト云人ハ一ニ其人ニ騒ガサレニ日本ハ今入ニ早
速帰帆セド四ツ世ノ中大騒キカツ何国同シク六ツ
無益ヲ止ニシテ七ツ何ヨリ金大事ハツヤガテ高高通
ヨリ九ツ是カラ眼ヲサマシテ天下ヲシイヅメタ

一十九日莊司友智云今度ノアタリカ船ニ艘ハ金沢下碇
残りハ浦賀沖ニ下碇ト都合九艘未ルト云

鐙云右九艘ノ内六艘四艘モアルハ三分病人

養生船兵器糧米蓄積ノ船興ニ船ヲ

一艘トセハ残り四艘也一艘五百人乗トセハ

二千ノ鉄刀銃ノカノツナリ

一十九日健之介キ習ヨリ返ラ云大船由一先喪

ハハ遠三度イデ今一度ハ沙汰アハ江戶ハ登ル

ト尤武器類勝キノ物多特不苦トハ津刀

リ云

一廿日中岡雄右衛門云床几廻甲人ハ知あ立江人登

床几廻七二日迄に登ルト隣中右衛門七人知将定方ハ知も

床几廻リれハ知中岡右衛門ハ知也トモス

功甲方公登尾崎兵馬ノ取モ登リ此其方ハ知床几廻功甲兵馬

八廻リ指リト大層掛リハ三々ハ知登ル由尾崎兵馬ハ知カ

シテ返テ登ル
ニヤヤ

一橋山ハ知ハ知功是也ハ知知也ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知

ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知

ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知

一船物云々ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知

ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知ハ知

石川住居 右ニテ千五万あるもの入ト云は人々之を云ふは小橋

廻内ある 在任ト云江戶分下ニ者云江戶道中牛久末

正ニテ其時 分比方船陸キ長ニ云(本レハ今ニ出陣ノ

有レシニ其 様沙汰アリト牛久分先キ江戶ノ方ハ却テノ

中ノ身ハ 勢ナリト云

おのち(は) 中ノ身ハ 勢ナリト云

鐸云は方ハ三家船陸キ年ニテモ陸クハ不恒

マイテウ京中江戶分下ニ者云江戶道中牛久末

タモ同以ケ取ノ時ハ常ヨリモ勢ニ云

中ノ身ハ 勢ナリト云

歎ス(シ)異船九艘位辟言(百艘タリト云其

時ノ趣言也 公儀ヨリ下知ナケレハ騒ク

ニ及バズ 闘戦ニ及ヒ 公方危難ニモ及バズ

ハの出馬ニ及ハヌ也此度モ宍子ニヨリの家老

ナド見届ハトモアし出馬ノ心付ハ心アル

者ハ笑止ナレ(シ)又江戶ノ夫々其意ヲシ跡ニテ

異船死心替目テる心ニ淺(来レモ一時ト云)

ルマニサレハ後ヲ思ヒテフルハ大切ナリ尤浦

加貝ニ役方モアリ番船モアシハ往來ノ如

ク彼方自由ハナシマシケレド用心ハ右ノ如クナリ
備々様ノ時ノ家中一ト金有之階方
用心ト令アシハ大般石ナル(キ)候約ナ
云モケ様ノ時撰リラ厭ハズ致ス考メ也

一 先由又云何故ウ吹吹早来リシト云又去
年江戸ノ成小路甲曹道具屋一魚屋ヨ呼
比者帰リニ見セナル甲ヲ見是ハ魚釣丁ニテ
切シソウト云シニ番頭サレバ切ル(シ)ト云魚屋
迷惑心シテ帰リ宅ノ隣ノ同職ノ者ハ今

日成小路ニテケ様ノアアリト候セハ夫し行テ
テ切ル(シ)余カ釣丁切し物故カス(シ)ト二人同通
先刻ノ申切り可申切しカ價ヲ出シ差シ切ル
ルハ價ヲ賜ル(シ)ト約シ通具魚屋^ヤ氏ニ金
子ヲ出シ切シニツキ切割魚屋其價ヨリ
シモ七あひカト云其甲ハ皮張ニテアリシト
ケ様兼品ヲ高價ニウル^ハ因恩モシラヌ
者也是等官ヨリ令有テ可然(シ)ナリ

鐸云都テ武器近年ハ高價ニナリ商

人民勝手と書置買之に如何ゾヤ早く令
ニテ急度口沙汰アリ度ナリ

一 先十四日江戸森本を去り五ヶ文通前後界を
通り

昨年ハ、心とこころもあつた。アノリカは来。
大樹の他思も。お年より下。大砲の響き。お巻場、築立。
ヨシヤ物。ウツル。右七ヶ文通。大砲の響き。お巻場、築立。
ハ、お巻場の響き。お巻場の響き。お巻場の響き。お巻場の響き。
お巻場の響き。お巻場の響き。お巻場の響き。お巻場の響き。

一 廿日江戸森本を去り五ヶ文通前後界を
通り

一 健し今お巻場の響き。お巻場の響き。お巻場の響き。お巻場の響き。
お巻場の響き。お巻場の響き。お巻場の響き。お巻場の響き。

一 廿日江戸森本を去り五ヶ文通前後界を
通り

と諸向動搖を火にえおら念入れ向くべき
しはあきりて

一 可り十あるべき 諸向の尚

の飛なり以下諸向、 乃中法印并大小草薺肌
し草薺とて宜判者し、 亦向後少歩大小草薺肌、
善い之れ草薺肌或ハ毛織染革等物より作
作りこもしく有く凡靴、 宜用也心法士等自
分取あるは之れ物草薺肌物に法印右以下矢倉方
後り之草薺肌一節し之ハ是とて固、 其し而、 糸

草薺肌を用ひ口の宜しきもの糸を以て作る

但是とあるは之れ糸あり而草薺肌を用ひるべき

鐸云軍制の胃ノ前立の法印對物に

水巻太しヒキハタ短文等ありノ印ノ南に短軍ニモ

誰藩に分る如く味方討ヲ厭フ為ノ大事ノモノ

也且は方の印等ハ先代様ヨリ口定九ニ此交

アリカ形ニ依ヒキハタるものあり五等ありあり陸

印草薺肌等より南指交ヲトヨリ右は道也其ハ

夫ハ口の宜ラヌトキは之に限り務るべき

は佐々木氏よりし有きことハ甚重肌等班くこと
利に余り主割ノ事之是ハ軍司方カ又ハ
番頭流ヨリ何ナリナクテハ如何シ夫ト云モ軍
子孫ノ俗史氏カカル過ナリテ類且
陸印等相アハ年用ナシクニ年用ナリテ定
或ヲ破ルベキヤ是武儀不案内士通未應
ノ事ナリ

一曰人云味取小善法取ノ事ニハ獲はるり段ノ事ハ
御地ニ白リたにちみとナリ又此らハ通中ノ事

は交々人更山々ノ事ト一説ニテ人ニテ是凡由ナシ
又馬廻リ權氏残シ者迷惑心人ハモ拘リト前（此ノ事ハ）後ナリトナリ
人ハ定説
有ニ付同役
ハツカシク第
同ニ成登リ
人ハ又モナ
了過モウも過ラ一善如トシ其有取ト教有也
トモ持ハハ此方取
中七人登ルトシ又此方取ノ事ハ以テハ燭燭三
貫目ニ登ルモ存残リサク本月初ヨリ漢祝町

下ノ出洲ニテ大石ありと云ハ一貫目ツ燭燭
下所歩ありし石ありノ者ハ其方よりハ燭燭
少クし方所歩延ニハ其方安知ト云モ其方又大石ハ

去年の秋上野首八登丑ニあるは念の方古夜ハ
車臺ナク今以用ヒニ不成ト又アメリカ船ノ事ニ付
川後臣下ノ金まゝ下者^{去年中ノ事}ト云フ
有ハ通ヒテ多ク存留老病^{及至異國ナリ}ト云フ
カ和事リト云トノ命トモヒ保養スル事
玉ノ上君公(氏名ハ大目ニモトナリ)由

鐸云君ヨリ格別ノ賜金啓言ハ今春異船後
其ノ弟討死ノ受取ニテモ容易ニ遣スル心
得ト云ヒ討死ヤハ父母ハ勿論妻子迄ノ難

弟^弟後^後、^手當^當田^田及^及シ^シ潔^潔ク^ク死^死ヲ^ヲ待^待ツ^ツコ^コト^ト君
父^父ノ^ノ孝^孝モ^モ立^立チ^チ士^士ノ^ノ存^存意^意ト^ト云^云ヒ^ヒ然^然ル^ルヲ^ヲ討^討死^死
ト我^我ハ^ハ栄^栄耀^耀ニ^ニ賜^賜金^金ヲ^ヲ遣^遣ス^スハ^ハ嘆^嘆フ^フニ^ニ

一曰人云は是ノアメリカ船何方ノ海ニテカ強ク我
船底割リ修履セシラ 公主人列ノ者又船
虚説也 此方ノカ引ハ告ケは者ヨリ昨日如ク併ハ由船
底ヲ割シハ先十五日ノ事ト云又此方ノ人氏ノ
中何豆ノ大船ハ水汲ニ事定メテ海を渡陸船上
陸セシラ二人ノ口揃シト云

一 去年月以承也 法王ノ銀治更ノ事ニテ江戸ノ事ト
是と交々本外異様ノ事知外ノ張ノ落板銀ノ
ノ事ト云又 禁帝ノ命ニテ法王ノ先
逃上京ノ由 上京ノ異狀調伏ノ事訴請
アリト云

一 鐸云隣家東條宗方友ル味々終廿三日朝江戸入登
ノ処暇乞ニモ考ラズ候令急登ニテモ四隣ハ暇
乞旅立ノ終ニテモヨシシ跡ハ父母妻孥ヲ残シ何方留ま申
柄江戸ヨリ出陣討死モ難計ケレハ跡ノ処直

頼ト云フ一 尤ナリハ駭キ登リ且討死ノ覚
悟モナキ者ト心有ル人ニハ咲ワルシ且礼ヲ知ラマ
者トイワレシ是父母ノ申付悪キ故ナリ古語ニ
遠キ親類ハ近キ隣家ニ不如トアリ誠哉
何事ニモ世話ニナレハ近知ナリ是等ノ語モ
シラマ者也

一 又云々々々中夫ノ事アリノ事且大砲及ヒ玉
サ菓等登リ出陣ニ 公方ヨリ口務通シ
勿論ナルベケレハ々々々ノ物ハ何ノ益ナカラシ是

江水ニ早ヨリ中ノキ故ヨリ諫メ止メテ
上ノ心任セト云モ他ノ聞テ笑止ムナリ然レモ
南時ハ天狗世ニ故右等ノノ知テモ知ラズ体
名同ヲ好ミ角近ヨリ有テ用エト他ノ知ラセシ
トノ義ニテハ三ノ事ナリ折テハ子成ト云ハ
心付ズ玉葉目録大砲ハ玉葉ニオビ此方ニハ
甘葉五モナク大砲モ急ニ用ニナレハナシト歎
息スベシ古人云取回則可思は國ト是モ志トテ
名同スルモ思ハト云ベシ實事ニモハロケルモ葉ナリ

七ノ事ヲモテ立ラス逾静穩ニ國ヲ守リ浦
負臣人ノ動靜ヲ窺フゾ真ノ武備ト云シ

鐸云陳中ニテ大言強勢カサ等云フ者明日
ノ戦ニ討死モヤス人先ニ逃ル者ト云又無言
静カ人ハ明日モ前進討死スルト云フ無言ノ
者ハ明日討死ト思ヒ家ヲ懐ヒ父母妻子ヲ
思ハ無言ノ者也然レテ他ヨリ見シハ倍思シ
者大言者ハ強者ト思フハ非也磔刑者引廻シ
ニ無言ノ者出言ノ者アリ無言ノ者ハ死ヲ覺

悟其場ニテモウロタノズトス出言ノ者ハウロタノ
魂魄動轉シ其場モ草夕見クルシト云

一セヨ健クケ云セ交る色ヤノ族ニ百為中ノ由説又日

光ノ餅付白太刀抜山某ルト日光ハ太刀抜シハ天州時
慶安申年ノ時ナリ

又康島ノ神解并ノ神馬見ハ成リシト此ニ

糸浮説ナレドケレド難有ツ共ナリ

一鐸云前糸江人登り人ノ登リニ如思ノ出立

中ニハ半合羽用ト花見昔是ノ様モアリト是

如何ナリモ昔ノ諸サ満多心登リ甲由日鑑自

ラ推乃(ニモ判知リナルベキニ平常ノ曉日モ顯し且

善悪ニ我斗ノ耻ナラズ免モ角モ上公ノ耻ナレハ

士ラレキ出立アルジ緩急ノ心
深遠ニシ筋ニモケ様ノ時ハ道

中往還并交度迄モ不知ナレハ恥ナキ様ニハ

ナラト見ユ歎息ス(シ且ノ字中ノ上下等都

テ清家規範ナレハ切士ノ心得モ顯ル)

尤不事也

一廿五日扇ノ介取云号船ヲ穩ノ折子ニ付一ノ先(モ

登リ貝取(モ道)尤モツトモハ法次并ニ如決(モ由)

内達ニテ止
シハ由ナリ
実ハ口軍司伊左云甘蕃取一言ニテ止シ也未ニ記ス(産物カ談アリ)

馬廻りハ
人櫻ノ弟
テ止シナリ
ウモシテ

又馬廻セ人々ノモウモウ有クハ
之ハ順ニシテ登リテ
有クハ年番ニテ登リテ
ト云九ノ一ナリ
出陳等ノ人櫻トハ
人々ニ拘リ不直也
又一ノ先ニ登リテ
ク交シテヨシ遅ク登リテ待ツハ日毎心セズ尚交
ト人ノ諸談ト云又此等江ノ諸藩ノ登リテ方
市中モ賑ワシ家見見セナド夜四ツニ引クヲ九時

建長寺
増修ニシテ
カサリトシ
市ノ中

近モ居ルト其外兵服等ヨキ品ハ賣リス軍用ノ如
シ等ヨク賣ル船名目ト云又異人ニ付談ニ不詳ト陸
此方ヨリモ役方多ク鐘倉建長寺ノ為談処ニナル
云ナリ又別帑書附見セラレ故ニ写スカク通リ
一月十八日方城大寺ノ井ノ為テ
反民部輔堀織部
自附浦
ニ任セ

一十三日浦里ヨリ伊賀臣信也
信也ヨリ
伊賀臣
星知トスレ

浦賀志は是迄海上陸に事は方々尋ね回れ安んず
積りし見(十宮夕ヨリ)富後坊依り事終る由
一ヨシヤハ麦八日崎港退航ニ由

一別後初在府大詰候(夫々)固々各々之種本
詰場尋追し候に先ツ無事ニ済す之趣
者多く平穩ノ姿ニ由

一細川侯守老長岡監物肥後八代九日ニ鐸云十九日
ノ説リカ三万石
是府道中急キ自勢更ニ追付者未夕半方モ
至り為し僅百人止ナラデハ事ハ事ニある也

半方ニモ百人ト云ハ手厚ク一ニ道中柄ヲ成て

後し心向し梅花我モ弓矢ノ通ノサキガケ

一老公の規或中比多子候返り候十六日ヨリ日

ト云候 中如言様ニ素トキ一ハ中候候日中事有し

ト云事ハ事申と云事具着用但老若ノ風并ニ

尺廻り方出馬し事ハ小具三陳羽織等台等由

モ云事云々

一浦賀内海子起し事ハ孤子ニ渡ハ交テ油以

ハ子云々彈丸指碇ハ印ハ事南者ノ事云々

日向新々初長
云四川駅ノ所
柄ヲミテ御者

鐸云鈍子并淺ニ処港口ナレ共ニ遠淺
ナレハ異船橋船ナラバハ入港難シ然レハ懼
ニ豆ラスサレト用心ナレハ彈藥ヲ備フルニ如ス。

一廿七日海軍云云其別大なる百壯ト見ハ警固
様ノ大小差タル者ニ又ツキ百姓壯年ノ者十五人
又ハ廿人位ツク幾行モ春末江戸へ登ルト又比乃ハ
此處ノ年ニ付菊屋中來ルト尤海軍ハ去二月
燒失ナレ用金南ル是ハ所役人ノ見立不直
カ燒後一年モ立ス指交ルト云

一廿七日海軍云云其別大なる百壯ト見ハ警固
様ノ大小差タル者ニ又ツキ百姓壯年ノ者十五人
又ハ廿人位ツク幾行モ春末江戸へ登ルト又比乃ハ
此處ノ年ニ付菊屋中來ルト尤海軍ハ去二月
燒失ナレ用金南ル是ハ所役人ノ見立不直
カ燒後一年モ立ス指交ルト云

鐸其書未タ一見セナレ此隊論ノ如クハ取
ルニ是ルナレ何トナレハ隊法ハ人取至然ノ形
アリ綴ハ逃ルハ四字様ヲナレ進ハハ四字

ノ形ヲ考ス是自然ノ処ニナシハ隊法ノ三救正テ善

此行下ル

ト云カラ隊長ト衆人ノ和名和ニ勝負ハ
カレズ況テ清武ノ人気が我ト不同撰兵元
又然リ之ヲ不知隊法ヲ年スル未ナリ

一曰人云駒ノ様ノ思召トテ此友百貫目世界ニ大砲ヲ
ナシト云
出来ノ由長サ三間半ノ筒口先ノ方三尺五寸彈徑
一尺五寸也ト比る事甚ニテ打テバ退リテ存如
クスルニ大人夫樹ル故大船ノ出来は同一様ヲ考セ
船ニテシヤリヲ取自在ニスト口取樹リヤ否ヨ如何

釋云此説不審夫大砲日本今無用ニ似タリ
且陸地ニテ三廿段ノ物也サレハ戦場ハ十段有
ヨリ百段位ナレバ且其全ノ大砲ハ無用ト知ル
一且中リヲ云ハる百貫目一挺ヨリ一貫目
十挺ナレバ一貫目十挺ヨリハ百目有る
挺ト云如ク遠所ハ大砲ナレバケレト中リハる
多ヲ善トスレバ且大砲一挺ノ利ヨリ大船
軍士大勢ヲ考セ合及セハ砲術モ遠ク
及バカス是外島砲技ニ長スルニ遠ク我

所長ノ物ヲ志シ人ニ致サレト云ニ似タリ及令
朝鮮征伐ノ時日本ノ銳利ヲ思ヒテ彼人
満身曹ト云ヲ造リニ進退ナラサリニ同シ

一同人云は云ハ村中ノ青柳村ハ百石ニ付金廿兩ツ
山南金向人ヲ供ニ出スニ村中ノ者南三月迄在
江戸ノ約ニテ雇金三兩ト云十人ニケ月ノ雇金半
兩右ノ如クニテハ百姓九ツブレニナルト村長ハ郡方ハ
告シヨシ九一村富家ノ者ハ用金ハ格別也高百石
ノ百姓ハ今廿兩ニ任行テハ甚難混スト云又此を登

リノ族日雇人ハ及請合一月ニ二兩只供斗ハ一月ニ
一兩ト可笑ク也又細川屋達ニシテ前後三日夜中
モ六ツ切ニ門ジノ処来三月即今年中迄ハ夜中モ門
ジヲ不通用ヲ許ス又江戸中往來不苦む收樓
ハ制禁ト出スト後ニ是偽交ト余カ前ト云又浦
加貝表ハ甚豊揚田年持カハ今アリテ南春ハ請
取アルニシト口甚切諸道具ヲ片付渡サント掃
除ノ処ハアメリカカ洛来甚都合悪ク夫故急心ニ大
砲揚サテ飾リ付渡サズ固メシト半途ニ渡サレ

不帰船渡セハ高方都合アモカシト云

一七方お秀泊リ云野村衣子也歳頃、云は衣子、
五十位由

船返来リ舟葉方ハ托ハ何モ用ニ去リ去リ

良ク行ハ就テハ舟有ル向西向東上方下方升ル

ニモ用向ト信信交種ノ下流河中橋内取ル取ル

申ス得ルトナリ

一 江戶表氏表北河作仕出セ方違ス云

孝考 上公并ハ中村村ノ色ノ重年為意方ノ報

以着舟船不
式ナレド宜記十六ノイ急ニ生物と毎リ 別存心也也

夕刻又ハ夜ノの陽光也之を守照ト云又云上河作

区別之船加リ土般浦也之舟夫ノ由海ノ示

入在取ノ亦ハ碇ヲ下シ托取内蒸元舟モ三也般者

之也更沖ニ船般也之白右ノ有諸大名ノ也也

之白堅人取也本大隆年ニ至テ 今リ林三日釋也 道乃

ニモ之也何ノ方越之也之也舟上下一統也都

仕也也也モ在舟ノ邊也右河ニ下一統之困窮也也

之也之也去十方 八分度授員取之也也

之也咭晚釋云北河也 船ノ追之方也也

前後六日五日

一 二月朔日海軍云子分ノ者大なる引込見(登リ)此

九日取歸リ今般(阿)アメリカハ運轉セ方ト云

曰(阿)王(氏) 今(治)九(八)日 今(治)九(八)日 今(治)九(八)日 今(治)九(八)日 今(治)九(八)日

居モ見物人ナリ休ミノ由見ヤ物類モ足(中)ナ

キ(阿)五(六) 虚(ナ)ラ(シ) 虚(ナ)ラ(シ) 虚(ナ)ラ(シ) 虚(ナ)ラ(シ)

其(阿)ニ(テ)大(為)ノ音(速)方(迄)御(音)キ(土)浦(取)ニ(テ)

聞(シ)ト(虚)ナ(レ)ズ

一 日(阿)核(ノ)父(モ)リ(モ)大(阿)向(リ)ヨ(リ)以(テ)大(阿)向(リ)ヨ(リ)

由(ト)後(方)其(阿)ニ(テ)相(阿)向(リ)ヨ(リ)以(テ)大(阿)向(リ)ヨ(リ)

候(ル)名(ノ)名(ノ)長(阿)崎(奉)行(阿)向(リ)ヨ(リ)以(テ)大(阿)向(リ)ヨ(リ)

掛(リ)名(浦)架(モ)同(以)固(古)名(阿)流(ノ)紋(楨)取(印)ニ(テ)人

其(阿)初(メ)カ(リ)表(題)恭(平)鑑(ト)ア(リ)カ(シ)

恭(平)鑑 西(内) 長(阿)崎(奉)行(大)阿(向)リ(ヨ)リ

守(同)ノ(阿)掛(リ)竹(筒)其(肥)前(守)川(路)工(門)村(荒)尾(土)佐(守)

浦(賀)奉(行)戶(田)伊(豆)守(伊)沢(美)作(守)口(南)掛(井)戸(對)馬

守(阿)林(大)学(頭)者(儒)雅(殿)氏(阿)輔(阿)向(リ)ヨ(リ)以(テ)大(阿)向(リ)ヨ(リ)

同(中)其(臺)信(者)即(目)平(山)鎮(次)郎(上)取(印)楯(紋)越(ヲ)出(ス)

大名(流)二十(人)外(持)場(固)大名(衆)二十九(人)在(ノ)通(リ)

萬五千ヨリ
アル由ナリト
為之數二十
有由一三ヨ
板面ヨリ
為言候余數
ナリ云々
為玉氏前

加賀守相 十萬
濃守 一萬二千石
井雅樂頭 一萬
計高五百三萬石
人数九十二萬九千
石火矢 十萬石
大筒 六百挺
鉄炮 二萬二千挺
車臺 附大筒 二百挺
長柄 一萬三千筋
狼煙 百三十本

松平隱岐守 一萬七千九百石
松平阿波守 一萬三千
石井伊掃部頭 三萬五千
松平相摸 三萬五千
石川越中守 四萬三千
松平大膳 一萬
石原左宗太夫 一萬
直田信 一萬
米倉丹後守 一萬
百二萬二千七百石
十一萬石
堀田備中守 一萬
十五萬石
酒
少輔 一萬二千石
河井安藝守 一萬六千石
阿部
駿河守 一萬三千石
黒田豊前守 一萬石
松平備
中守 一萬三千石
加納備中守 一萬石
松平下総
守 一萬三千石
松平肥前守 一萬七千石
松平誠丸 一萬七千
石 松平越中守 一萬八千石
松平兵衛大輔 八千石
石 松平越後守 一萬三千石
松平越前守 一萬五千石

二万石
森川出羽守 一萬五千石
水野忠政守 一萬五千石
石林播磨守 一萬九千七百石
立花飛騨守 一萬三千石
十一萬五千石
松平内藏頭 三萬石
二萬石
稻葉兵衛
少輔 一萬二千石
河井安藝守 一萬六千石
阿部
駿河守 一萬三千石
黒田豊前守 一萬石
松平備
中守 一萬三千石
加納備中守 一萬石
松平下総
守 一萬三千石
松平肥前守 一萬七千石
松平誠丸 一萬七千
石 松平越中守 一萬八千石
松平兵衛大輔 八千石
石 松平越後守 一萬三千石
松平越前守 一萬五千石

品川海二三の臺場口代官江川太郎九工門惣心坪數
九万六千六百九十四坪在トカリ

鐸云吳祖七被位松本内布牧、主ハ一ハ一

ト云ニ右大冬ニ取固ソハ 公道ニモ莫大ノ

物入浦與持ノ大冬取斗ニテモ然ルヤカ

マシテ去年ノ區取取ニ奉ルノニ 戰爭ニ

モ及北條ノ時蒙テ渡来ハ前後十五

年ト承ル右ノ口物入ニテハ兩三年モ如何

十五年ノ持長ハモ是東甚歎ズ

一 移夕初王右方今夜云々云々云々云々前記

ハ今度物ハ出ル不田取田與人取少之我

抄由同日記云又ニテ初方カ田成前記

兼新地ニ云名口切取取田成カ者名口切

又此方ニ過口人標ニテ登リ 寺ニ付見

不氣彼取合カ者ノ尚是年カ者カ者カ者

五取カ者カ者カ者カ者カ者カ者カ者

六カ者カ者カ者カ者カ者カ者カ者

一 去年月中信濃ヤ信原細ヤ云里羽廣臣

御地新書老臣が家久の家刀鍛冶三名刀
鍛冶刀り九平造一寸由の短刀の三枚
モナシ長二尺八九寸位の脇指ナラテハ用ニ不立者
長揚物ト云

一尚書云々の存者今云赤城軒ハ片切彫
ノ名人紙町八百ヤシ七宗与宗珉ノ傳物又ハ彦
六等ノ傳物ヲ出来サセノ為九赤城城軒云人の傳
彫ノ後精々を司ルハ長徳ハ後ツルキト云
ト云々年彫毎多ニテモ其ハ必彫由彫ホモ

至テ邊ト云余赤城軒不動丸并友光ノ名
物ヲ希尚人ヲ種々傳至之旨至之画像
尋る見写ルテ傳トヤハ写至之由テ
方ハ彫リトハ職分ト云々ト云々有也
之ト云々ハは者ハ上キト云々ト云々
一遠征危言ヲ跋江戸氏ハ彫作也
ト云々世傳ト云々下リ向北者ト云々
古射要深ノ序文ト云々直之太教都
其外ハ漢文ハ直之太教ト云々

一昔は昔ははる江戸の下若河に大邸の家を建て置
けまのこゝろにてある又物産豊富なるは知らず
とちやとて思ふもまき家の如くある又云細川
侯藩一人他^二江戸甲曹居二十餘年然
外も多しヤトあり今大分一原等て見れば
御皮包袋やばさげなどお南は御法道
花種ト切付あり法道は見えぬと今も
之を束ねたり御道て送るや御川座より
且大具之法を御用におくもあつて又
大蔵長は御賜り右品は先年分尋はる
得たり御大とのありと由

一言其氏中長言もえく由云

右ノ事ハ多クは民間其アメリカ今以て本邦に滞在
別ニ言アリ 其ノ事ハ多クは民間其アメリカ今以て本邦に滞在
叔ハ言儀 其ノ事ハ多クは民間其アメリカ今以て本邦に滞在
相対入^二 其ノ事ハ多クは民間其アメリカ今以て本邦に滞在
テ不^レ也 其ノ事ハ多クは民間其アメリカ今以て本邦に滞在
由是是言^レはる^レ一語^レ事^レ御^レ中^レ長^レ言^レも^レえ^レく^レ由^レ云

以時市中之
見人衆故ノ
義日逢ト云

こまに女衆のまじりたるを 極小の房に籠るる
より戸を閉めしめて出でず一日に汗を流りて
そのまじりたるまじりたるを 証生日なりとして
かきつゝとて大統の千歳をうけて 其名を高く
かきつゝとて 高々とまじりたるを 是れは女衆と
とてかきつゝ 高々とまじりたるを 高々とまじりたる

四つ目

一昔女部公の如く云はるる大蛇の身は 女部公の如く云はるる
節の如くはるる女部公の如く 大蛇の身は 女部公の如く云はるる
用莫太尚の出馬 極小の房に籠るる
はるるの目まじりたるを 高々とまじりたるを 高々とまじりたる
テは是等 南君の如く云はるる 高々とまじりたるを 高々とまじりたる
書之刺は方はるる 高々とまじりたるを 高々とまじりたる 高々とまじりたる
と申ト云

此云石の如く 南君の如く云はるる 高々とまじりたるを 高々とまじりたる
と云ふ二貫目 高々とまじりたるを 高々とまじりたる 高々とまじりたる
ふ知ノ是トナレハ高々とまじりたるを 高々とまじりたる 高々とまじりたる
と云ふ高々とまじりたるを 高々とまじりたる 高々とまじりたる 高々とまじりたる

么々チ聞又ハ之爾或府中ニテ聞リト云
モアルヤシ水戸ハ江戸直^{チヨクドウ}返ナハ里然波
山ヨリ江戸目^メ内^ノ亦物^ノ直返九里ノ由セ
ハ府中ヨリ江戸迄九里ノ前後セバ積念
砲ノ音^音異^音者^音キ合^音葉^音ヲ
用ヒ人身ヲ驚カスコトアリ 聞元管ナリ順
風ハ水戸ノも聞ヘヤナリ 雷^雷ノ三^三里^里四方
聞元物ト古老ノ談也

一八日杉浦^{杉浦}知^知分^分取^取云々云々江^江水^水改^改ウ^ウ醫^醫術^術方^方俗^俗俣^俣
ニ依^依存^存は^はる^るウ^ウ創^創醫^醫其^其未^未タ^タ醫^醫モ^モ極^極ワ^ワス^ス亂^亂醫^醫

ニテハ脈^脈症^症ニ出^出ル^ル如^如ク^ク醫^醫テ^テノ^ノ上^上と^と下^下は^はる^る也
コト^{コト}ヲ^ヲ云^云フ^フ也^也 我^我ハ^ハニ^ニテ^テノ^ノ上^上と^と下^下ニ^ニ

ハ^ハ無^無ニ^ニテ^テ下^下レ^レト^トノ^ノ説^説云^云フ^フニ^ニ 駒^駒江^江様^様ノ^ノ醫^醫術^術
南^南人^人一^一代^代ノ^ノ附^附也^也 俗^俗俣^俣也^也 七^七亦^亦ハ^ハ表^表裏^裏ノ^ノ醫^醫術^術也^也 子^子孫^孫
テ^テイ^イハ^ハツ^ツク^ク存^存存^存俗^俗俣^俣ノ^ノ醫^醫ヲ^ヲ遺^遺フ^フハ 帝^帝王^王ノ^ノ外^外成^成
ラ^ラマ^マフ^フコ^コト^トニ^ニ存^存存^存由^由右^右ノ^ノ道^道ヲ^ヲ付^付ク^ク醫^醫術^術中^中長^長久^久ク^ク
は^はし^し申^申ス^スリ^リハ^ハ表^表裏^裏ノ^ノ方^方也^也 又^又は^は表^表裏^裏ノ^ノ方^方也^也 又^又は^は表^表裏^裏ノ^ノ方^方也^也
初^初等^等ノ^ノ存^存存^存ハ^ハ庶^庶几^几廻^廻カ^カク^ク江^江ノ^ノ上^上ニ^ニ金^金角^角ノ^ノ一^一唯^唯
と^と云^云フ^フコ^コト^トノ^ノ方^方ト^ト云^云フ^フ又^又ハ^ハ表^表裏^裏ノ^ノ方^方也^也 又^又ハ^ハ表^表裏^裏ノ^ノ方^方也^也

ナシ物ズレシ

一曰今云枝川の生駒奇士也星葉希く其の中余り
ト又外玉時シタマよりテ勝倉村迎へ居たり其方
へ許へしニ玉ナクハハタ終りぬ由玉物主其者
ハ云終りぬ由神云是初心く者ニハ折上居カ
杉浦氏曰年ニテ云枝川ハ生駒ノ居者其者カササ
ナリト初玉氏云向ノ邊山者此中ハ生駒居村ノ
行ハ向ノ所也云ハ生駒方ノ所ハ借具之海
ト云トハリシ玉ニ指さレト大竹セリ又下河

込山カササ

村ノ所也其は希面山年秋方有テ南早年ハ武士也
梅ノ所ニハ余伴ノ所也ハ武藝云ハ制禁レテ
ト云又風説ハ其輩ハ 南君少シノ後ツシモ
ニ年ハ何ハ在子西丸ノ所ナリ 此年梅ノ所ニ云
神云是昔交座言多クシモ其ノ事ノあり

一 今云仙老侯之地國ノ命アリテ早中臣
方沢山出希ノ通リ 尤仙老様ハ中臣通リ通リ
ト云

一 此日付前 高シク云是道テ去年瑞穂有南所

布を身へ巻けり申すは、病を治すに効きしと云ふ事ハ
丸ニ綿様用ひ取道ありと云ふ事ハ

南無阿彌陀佛を念ふと云ふ事ハ

一九日 仲父の云ふ事ハ

十四日 仲父の云ふ事ハ
云々 彼の事ハハハ
テアトノ油ヲ和シ
後チ田ニ下ルリ上
自ル其カニカシテ
ヲタクシテ
ニテ物ニセシ物ニ
ト云

日中あすび一ツ位アリとの事ハ、由ありん位ニ
コトありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん
ト云ふ事ハ、由ありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん
ト云ふ事ハ、由ありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん
ト云ふ事ハ、由ありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん

言ふ事ハ、魚介物等モ干す事ハ、由ありん位ニありん
漬ニモ、足取平、磁瓶子、庄屋、由ありん位ニありん
又瓶子、漬、常ニありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん
又瓶子、漬、常ニありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん
又瓶子、漬、常ニありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん

一 日中 裡ニ目見たり、按摩云々、由ありん位ニありん

是レ、目見たり、按摩云々、由ありん位ニありん
按摩云々、由ありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん
又瓶子、漬、常ニありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん
又瓶子、漬、常ニありん位ニありん法ハ、由ありん位ニありん

不尚妻子斗ノ者ハ其入用ヲ主分レ不^{苗主中}由
一人云此ハ江戸ノ下ノ者漢云大師川ガ方ニ先
ト是船立船主大直ノ旗ノ之船主ガ有テ六艘
余カと凡一ト又納川侯臣ニ七十五貫目ノ鉄
拵振ノ者ト云カ陳^チカ由^ユ屈^ク漢^ハカ

一因^イカ^カ云細川侯陣中中^ナガノ者^ノ角力ニ段目位
ト云テ者^者不^不毎人^{毎人}ト角力ガ云テ是^是食^食カ^カ毎^毎テ
人^人去^去来^来リ^リ自^自マ^マ子^子ニ^ニテ^テ角力カ云テ是^是食^食カ^カ毎^毎テ
彼^彼中^中智^智思^思フ^フニ^ニ是^是人^人カ^カノ^ノ砲^砲ヲ^ヲシ^シント^ト押^押合^合ト^ト云^云

人^人カ^カニ^ニ是^是砲^砲カ^カ限^限リ^リニ^ニ押^押タ^タレ^レ睡^睡出^出ケ^ケ倒^倒レ^レシ^シラ^ラシ^シル
ト^ト分^分リ^リ者^者シ^シセ^セ人^人ノ^ノ是^是人^人一^一回^回ニ^ニカ^カリ^リシ^シラ^ラカ^カ一^一程^程ニ^ニカ^カガ
之^之者^者投^投擧^擧シ^シ或^或ハ^ハ八^八九^九尺^尺又^又ハ^ハ一^一百^百位^位四^四方^方投^投ケ^ケシ^シ中
ニ^ニ召^召被^被投^投シ^シ者^者ヨ^ヨリ^リ毎^毎ト^トハ^ハク^クテ^テ行^行キ^キ一^一回^回至^至
船^船跡^跡ヲ^ヲモ^モテ^テ在^在カ^カ船^船ノ^ノ内^内毎^毎ト^ト云^云味^味キ^キテ^テ也^也ナ^ナリ^リ云^云
加^加負^負戻^戻ハ^ハ二^二百^百廿^廿五^五貫^貫ノ^ノ也^也ト^ト云^云十四日ノ
人^人數^數カ^カ此^此ノ^ノ水^水陸^陸砲^砲一^一挺^挺モ^モ在^在レ^レ依^依テ^テ一^一半^半隊^隊ノ
至^至ル^ル者^者公^公色^色ツ^ツ呼^呼出^出テ^テ也^也不^不陣^陣中^中ニ^ニ陸^陸砲^砲一
挺^挺モ^モ在^在レ^レ由^由テ^テ一^一百^百貫^貫目^目ノ^ノ三^三挺^挺カ^カ傳^傳セ^セル^ル也^也ト^ト云^云

とあるに云く舟中より道なきに居たりと云く人
を舟に爲し入陸砲より砲撃ありと云く舟中
數千人に砲砲丸を投じたりと云く舟中
ありして八九十挺の大砲直に砲撃ありと云く
舟中より砲丸を舟に投じたりと云く舟中
江戶中の砲三四方砲台一人を罵り上りたりと
感不 右陸砲は砲丸中大評判且細川侯出陣三日
ノ失費は者モ加洲陸砲ノ言ヲ美シキ事モ見ル
ト云

出陣し令ナクハ人殺しはモ蓋しと云く舟中
に居る由を利侯に云く者モ細川侯に云く此方
の砲丸を舟中と云く舟中と云く
受テハ蓋トテ令ニ背ク 何トナシハ凡士タル者令ヲ
バキヤ是ヲ直ノ士ト云ナリ 又竟ナクハ夕度物 前ニカレ
祀ス 全況迎ノ茶屋ニテハ休息ノ処ナリ 主近ニ
テ一舟ヲカリ是ハ召シトハ馳走心ニ上ル也
ハ字船中 彼是細川侯陸砲ノ迎ヤラハ
道ノ利是ハ大砲ヲ向ケル也 舟中
シラ日本人ハ弱シ大砲ハ舟ヲ破テモ速ニト笑シ

由は方々通りしハ、意ト由ナリ

鐸云々ハ、夜ハ、田舎田舎人モ、此器ニ、年リシ、
ニ、亦、右、危、知、ト、リ、能、シ、ハ、向、中、ハ、ハ、
破、意、ハ、ハ、若、若、者、要、キ、キ、ヲ、持、テ、ハ、弱、キ、者、強、
キ、者、ニ、勝、シ、是、ハ、強、者、ヨ、リ、勝、タ、セ、ル、ニ、在、ル、也、
ハ、通、リ、テ、ナ、ク、是、人、ノ、笑、ヒ、モ、亦、強、シ、ハ、方、ヨ、リ、
是、人、ニ、笑、ワ、レ、ル、ヲ、又、シ、且、笑、ノ、ニ、亦、ス、是、人、
ハ、故、功、モ、ラ、ハ、丈、死、ノ、者、キ、カ、ラ、シ、思、慮、ナ、
キ、ハ、但、此、事、ニ、付、キ、ハ、亦、後、世、に、モ、笑、ト、ナ、

ラン、ハ、他、事、務、ノ、ニ、ハ、危、事、ニ、近、ヨ、ラ、サ、ル、様、ニ、ナ、リ、

第一、ハ、此、ナ、リ、

拘抱化

一、曰、云、近、來、親、聖、好、不、為、且、是、修、養、云、云、
カ、身、ヲ、拘、抱、傳、來、ノ、是、身、
是、相、在、一、鳥、居、ヲ、キ、リ、時、塊、ハ、
是、相、セ、ル、具、是、ト、云、
朱、條、ノ、唐、冠、シ、ヨ、素、掛、金、胴、ハ、桶、カ、ワ、前、後、
胴、ニ、徑、ハ、九、寸、ノ、日、丸、朱、條、ニ、テ、ア、リ、下、散、サ、等、金、素、
掛、由、床、ノ、飾、リ、シ、具、是、ニ、西、ノ、中、此、品、斗、ノ、唐、品、
ト、云、外、ニ、領、先、祖、用、ヒ、シ、品、金、小、札、ニ、朱、糸、ノ、ヲ、モ、ダ、
カ、威、ノ、由、是、戰、ヒ、ニ、用、礼、或、ニ、用、ヒ、シ、ト、云、右、唐、冠、ノ、

上ハノ取ノ時ノ者ノ一ノ南ノ一ノ北ノ自航ト金
ト云々方々引移中ト云々ありト市ノ南ニモ
移スル由一ノ先ハハノ南ニモカケテ有之
伊若取ノ言アリト云々ト云々

一 此ノ地ニテハ北ノ一ノ南ノ北ノ自航ト金
通南ノ一ノ方ハ北ノ一ノ南ノ北ノ自航ト金
十一日元銀 針器 針器 云々云々 針器
千石ノ村ニ千人ありト云々云々 團云々ニテ云々
一 西ノ一ノ北ノ一ノ南ノ北ノ自航ト金

是ノ由村長村大和云々ト云々 又此ノ村ノ一ノ南ノ北ノ自航ト金
隣村ニテハ三千ありト云々 日本大和云々ト云々 千倍云々
買物ニテハ一ノ南ノ北ノ自航ト金 三千ありト云々
一 日本十石ありト云々 日本十石ありト云々

此ノ由村長村大和云々ト云々 又此ノ村ノ一ノ南ノ北ノ自航ト金
隣村ニテハ三千ありト云々 日本大和云々ト云々 千倍云々
買物ニテハ一ノ南ノ北ノ自航ト金 三千ありト云々
一 日本十石ありト云々 日本十石ありト云々

此ノ由村長村大和云々ト云々 又此ノ村ノ一ノ南ノ北ノ自航ト金
隣村ニテハ三千ありト云々 日本大和云々ト云々 千倍云々
買物ニテハ一ノ南ノ北ノ自航ト金 三千ありト云々
一 日本十石ありト云々 日本十石ありト云々

江戸史
ありト云々
由ナリ

氏九州征伐生俘ニ在リ父老川死去而陳
不戰者ヤ身ヲ中ニシテ死スルハ父在リ生シテ死スル
子也今半途ニ凱陣セハ落シテ苦勞セシ去
シバトテ夜軍ヲ之敵ヲ亡シテ後功陣シテ送
葬セシト云是大伴ニ附テ了る者セカシハ大恙
ヲ不免也 以是臣寸ニハ督一ガタクノ旨
將軍ハ子例ニテモ折拂モ後礼ヲ以テテ慎
一 日本ノ大伴ナリ 且臣下ノ常道ナリ
一

一 同人云此大伴ハ其船ヲ死ト 公也ハ仰
徳ニテ扱トノ令也ト云大伴ハ大伴ノ一取ノ事星
一 村モ通スハ其ノ事ト云シ由鐸思フニ空説ナルベシ
一 是也其意ハ其ノ事ト云フナリ云
星船ト云ハ其ノ事ト云フナリ云
一 固ニ之類能傳レ由ニ事ト云フナリ云
何也其言法候物ト云ニ言候事ト云フナリ云
一 河内ハ固ニ之類大伴ハ其船ヲ死ト 關老ハ
其ノ事ト云フナリ云 關老ハ其ノ事ト云フナリ云

長門とあるは

ちとある

方々

四つとある

一 十三年高田藩よりある三尾屋又三尾屋 高田藩 赤松

公八郎とあり又 公八郎 并石拂等立

花皮等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

道中奉行ノ一也 目ナリ

西里利加無生等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ浦田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

高田藩ノ高田等ノ親ヲ三尾屋ノ如シ

元と名と古多能らおたゆらるなり 方々よりか偏
劍標を結し移度 日夏と云ふ者其地 小宮地と接
新を三に御所料を厚くするなり
他古艦を所と諸藩に 爲に成りしに當り
何れ亦りあるも 良方今所向地所云方通り
後新する所 固に必死に之 情ヲ辱之 言用く工夫
之を尤詳御兵端ヲ聞かす 帝とありしに 人少船亦狀
速し船亦二及なり ありしに 右海より 万石以上以下
ふ海より ても御所 在通大目所 固に 事なり

重里利加尾拂

川にうらさき 船 毎夏後海の 船を二七 なる所 爲で
拂ひて 舟 終始 玉々 ありし 事 立 あり 君 代 の 下
あがりたる 爲 あり 其 北 の あり あり あり あり あり あり
の ところ あり あり の あり あり あり あり あり あり の 下
うの あり あり の あり あり の あり あり あり あり あり あり の 下
ヤノ あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり の 下
浦 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり の 下
固 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり の 下

具足開キヤ得粟の揚て兜のノ鉄リ純々花の方
以年未先ツ何より七そのの唐の社のほる因先よ
ストとんくとおまふりれりる悪魔の毛衣人坊テ
あてとるふと何等の物も初め鬼のみの法
皆底の透きくはくごり

千種有坤卿

皆人の心の底り守りて志堅きを以ての伊勢の物見

立系尤近於監濫寛

何を何り浦雲のほる流りたてるとる金志を以ての玉松

一十号七軒所也浦用南云あやの屋々也比留野交りカれ
ノ三化由又老兩年赤平ペンリカ船浦也ノ降りや
上徳さる十人親手也土モ多りよふ六七人烟此ヲ
ねだるんをよふとたしカみ者多ヲ若リし尤士分ハ忠
しる船好書り也るは方士ヲミテハ書止必記く
室あそる内そく年く礼りゆりぬ者く者船好
尺多とテ好側ノ年りよぬ好れあ三四百をせ
位く万ニテ下同切ニ四方へそへて四人船所
炮ヲ持固メ飛ぬ好ハヤミンを降り厚守守位

造りし玉走ノ字物ノ中ニ右左北ノ向りあり
何う形ヲかけし長後ノ事ヲ形モ片手あり
あり仙画ありしと云ふいふも子高ありし父
こいありなりありありもこころ如きあり
後ハおろしめカシキハ是人の事ニテウレサ
キ是人の事と云へも辞多聞知不

一十者ハ安云走七方是人ノ向し下あり

四井傳也

右者江月を下り流す

藤平之流也

人良く後流也

と上切取と中取ノ執開老取ノ事(通)ニは及
而し之有是安陸所至手面ノ遠近あり
弟二人ノ良是又ノ事云く一ツ二一ハ中竹通て
物ハ各ヤありありありありありありあり
如此ニヤ取ハありありありありありありあり
と云ふことありありありありありありあり
と云ふことありありありありありありあり
左右ノ次第ノ事坐モ後四形ノ事率五也
と南七船ハありありありありありありあり

弓紋者、一、字子丸右ノ次官ハ片年ノ上ニ金ノ
紋者、一、云、兩部、公、和、持、吾、事、三、付、只、持、所、ノ
人、吞、し、ハ、次、官、ノ、者、格、ヲ、受、半、日、吞、ニ、残、リ、半
日、ヲ、融、納、吞、ニ、條、ハ、受、ニ、吞、ニ、付、ハ、云、
解、解、之、由、ト、云、

鐸云右更傳之、云、
一、江戶末氏書、十、言、云、去、于、百、大、師、何、取、八、年、訪、七
為、二、神、奈、川、一、回、リ、是、子、新、五、年、ニ、モ、テ、則、里、上、也、ニ、テ

寄揚生傳中、右、ノ、夜、女、ノ、事、ト、云、カ

略回ヲ以、ハ、字、子、丸、ノ、カ、名、也、又、諸、大、名、ハ、固、シ、
回、ハ、老、幼、ノ、回、共、ニ、見、ル、也、
船、ノ、回、
二、板、下、也、
去、来、ノ、名、下、ニ、リ、シ、又、之、見、人、金、貨、上、陸、揚、リ、
設、年、日、ニ、ヤ、毎、年、一、万、表、ト、云、ノ、説、也、
上、也、
一、万、俵、ト、云、ノ、事、ト、云、
ハ、ト、云、又、先、ノ、傳、ノ、年、ノ、穿、ト、云、
穿、神、ノ、事、ト、云、

内越者と云く者江内なる二年余あり押入人ヲ殺シ
全ク方ノ家敷ヲ少ク存存大盗々由は存存の
宗中ニテ人相あかり都下大改判ニ至リ

二月十三日

左ノ方ナリ

四ノ方ナリ

一 十分はあまき十十分は政所ノか後所年考ノ多ク又我
ヶ崎村子地廻ニ是れ存存軍ヲ受レ日本は
之者即死地政ノ所ナリ他遊ノ事ニ至ルニ
之者即死地政ノ所ナリ他遊ノ事ニ至ルニ

内海今ノ中ナリナリ一南目ナリハ水ノ前中地存

ト三十四方ノ者ナリカハハ十九方ノ由洋ニ由馬集
難附上書ナリ

一 昔健江迄被兵守ナリ云々人等ノ事ナリ

之不著者ナリ由は時ノ由
写別ニナリ

一 同ノ病王氏云々十有二人ノ被病ニテ口答ニナリ

之病ナリ由人由少少多あり及陣内ニテ軽茂アリ由
次ニナリ

此等ノ事存写別ニナリ

一 此方未分通ナリ云々其ノ時多分ニ被沖津川ノ
入津今ノ由ニ接触ニ至ルナリ

一 此云初王曰云走十九者其私(榜)備るる地走由
書寫別あり

一 此者まじし其分取云走十九者其地走し之印取

ア、タムスハ
第ニノ地由

礼者、大キニ立後お放しに御指へ手し出ルニ浦矣

由心二人井汲抱為七希ヲ去ルニ云走也云浦矣

回心者身ノ者ア、タムス余礼漢ノ字アリト云、許、不能ク人

ヲヤカス者ニテ回心立後おつ子、不ヲ通辭ノ者見

付回心ヲ押へ走リ、熟シカ目是ナルまじし氏又云

十九、夷人帰途ノ希一人の和國メシ坐系大和

大夫豊前小倉陳頭、来リ馬印ヲ寫シ幕ヲ

引張り大砲ヲイケリ無礼由又彼理ベリ、壬午恆床

ノ時ヨリハ容子憔悴血色モ悪シト云此度ハ都テ

鐙云小笠原侯陳ニテ夷人ノ無礼ヲ其儀此儀ハ由

ニシハ大臆病睡貫ノ者斗トミタリ彼ハ

益輕蔑、ハ國威ニ拍リ大事ノ儀ナリ

右様ノ者ハ召捕又手ニ餘シハお控其由ヲ

申出且又船將、モ断じぎつナリ是れ我威ヲ

示之彼ハ弥屈服スル也守法ハ以攻法ト云
是也

一 三河 罗健江道船無事、坊、杉浦、夜、三、夜、不、有、昔、
異人、之、接、し、者、甚、く、別、り、又、小、池、平、八、夜、不、
曾、西、亞、の、道、者、は、し、を、又、写、る、事、あり

一 切、ま、し、甚、く、之、が、り、の、由、是、が、取、り、お、被、信、し、今、
之、が、大、に、あ、り、る、し、の、通、り、を、又、写、別、り、云、
異、人、大、に、あ、り、信、し、る、事、從、つ、る、し

一 此、の、三、幅、あ、り、取、云、ア、タ、タ、ス、像、は、江、戸、繪、畫、ヤ、ニ、テ、新、

板、賣、し、由、鐸云三月十日应接、時像、テ、キ、ン、由、其、
像、を、し、出、板、の、免、ト、云、語、同、断、ナリ又、云、去、三、

日、渡、沖、ア、リ、カ、船、數、艘、見、し、由、本、牧、海、ノ、帰、帆、ト、

見、し、又、云、二、日、中、ア、リ、カ、国、王、誕、辰、祝、祭、ノ、旨、訴、し、奉、

以、ん、中、不、隆、ノ、由、達、ア、リ、ト、云、ノ、也、又、云、此、度、大、名、

固、ノ、國、江、戸、開、板、賣、し、不、比、方、小、回、物、ヤ、等、モ、込、出、有、

し、由、又、云、今、度、ア、リ、カ、ノ、船、ト、是、船、ノ、運、ヒ、ト、江、戸、

花、前、ノ、小、揚、エ、リ、人、ニ、テ、出、し、此、人、ト、米、ノ、カ、ウ、キ、ラ、

及、不、比、方、者、一、人、モ、負、ケ、ル、由、又、云、先、日、由、島、謙、

ノ、久、成、京、地、ト、下、リ、し、此、途、中、ニ、テ、承、ル、ニ、細、川、彦、ノ、下、

人中間位者ニテモ今度江戸ノ詰料一八〇年
ノ分辛酉兩十位莫太ノ入用ナラント云

一考は上云ちりし方江戸、江戸甚長年より一
行なむる趣也

向面白くなく昔年あども格と存直ニ返入るも更ニ
入るしそ亦あむこすや、甚長年ノ入用ナラント云
由又アメリカノ出立者も外郎の辨しやさびしく
いつもの江戸といふ遠く由アメリカ往うくも停止テ
あむる一又或人英人ヤリノ知う丸キ限往テ
位ノ島子有る所三四折也一立ると云(云々)

形事一船通河石キ限四折也一と云
所ノトヤレ所ノトヤレ夫々各形ノ由在限以物
とハ砂粒の位も又本牧近ニと畑作を甚しむ
所ハ其物と云ふ所ニ百姓も委く押くも由此
ソレカシノりそ入字ノ者有る所ハ形もありと又
英人一人沙草ノ集訪と虚説多し然レ江戸
中は其を志す者多し一尺ノ者もありと云
吏多し神事あり英人上陸ノ由は其邊あり
づし又本牧ノ島船ありし者も由是目録し押(云々)

山唯界川より甚切泉川分れてハモの源ニ及る
月隠そ見てハ又く山あり善法中ハ仙子春内
分たれし由人豆大権上云又皇六江尾ニ入りし由先
天姓院皇和調伏ノ祈禱アリト皇名及れハ日中
祈禱あり

一 寺ノ南ノ行者所ハ西江殿買之由是てホ口矣名ノ方
山夢揚ニ及ハ一取し之と云

一 寺ノ北ハ田南云三十軒ノホニハ目皇和ノ由
ハ佛堂ノホト云ホ所ナリハ佛堂也ホ由龍シハ存

ハ不弱也也と云又昔年中長崎藩ノホアリ
力ハ交易及ニ日幸ノ品ハ存於後在交易ハ
ニ有ハ増えし由祈由又ハ凡醫者大権所也ハ
破折家名有之と先年中用之ハホホ者月ノ
打及由又兼子武甲トハ下為限金三ノ方
破折也来多許ノ由水戸名ハ破折ノと云
隠之形ト云

一 寺ノ北九ノ山ノ通ニ皇和名曰泉岳也
是ノ寺ノ山脚何ホハ多信也云と皇一人ノ寺

浦野と力の白源大御名并御舟夫と云法と書
切年 鐸云御 大層ノ山を幸り 凡雨之徒
見所ノ御舟を御り 六令の後を且是迄
江戸ノ全リ交り申と云を陸ノ舟あり 云法
ぬと申す 凡御り 向徳来の人皆 江戸ノ士分
と書く 云々

四ノ巻

一 三ノ巻 末ノ山ニ云云人々侍并御舟夫
云々下は此は方々云々云々云々云々

感時作 又是如し 御舟 味今 二日三月 帆ニ交
く海舟ニ事 諸大名人等 四考以 御舟 凡御
し 御舟 凡御 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟
凡御 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟

三ノ巻

六ノ巻

四ノ巻

一 二方 恒元云 江戸 凡御 御舟 御舟 御舟 御舟
御舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟
一 右ノ舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟 御舟

万斤より由又南時坐舟より和庄廻り高き所
より為七不包之國ありし由又シハルは造者より
砲等七くねとて所由

一 同 十三日海軍云此節江戸警備兵多し六神社ホ
陳子ニ至是を起す所由

一 同 七方松尾用南云南阿ソリ力下四沖ニ滞船ハ
今より石炭未だ読人集り市に取れ待我

由又薩分ハ度大なる中ニ浪山モニケル者ハ南
洋云同玉ハ上果し揚毛かよ由北ハハ江戸ニ至れ多キ
シは是大砲吹立ニテ用し之而北ハ市テ江戸分買由

一 同 月未^{日附息}テ礼スシ 考也云此より一以道者ハ浪浪より過る
物より延ししと云

一 四月新々考也云薩分後ノ蒸気船幸神ハ先年
琉球ハ薩分ノ噴夷ヲ討其船ヲ取之也ト説カ虚又考也
後来ノアソリ力大者ハハ新拂交易リ云々ハ薩分氣ハ
新拂フト云

一 同 考初玉氏来り七言古アメリカ後来ノアソリ作ル狂
待一首^{航海始末ニ出}又江ノハ是船内海也帆ハ^{此ニ費セズ}道^{ハ岩川}

ハ岩川モソアリ 此表諸屋鋪所家迄燭硝取ノ道アリ

贅

ハ岩川モソアリ

一 四月方武云水考上野長町白石虎産平本抄

所谷田郡為七下長元持ヲ年討至由

一 曰云所し之云是十一日方四宮之區申ニ有八麻敷

以下りしつ派法也高村比方之位居り申す救ハ全四磨

初余六磨次金七磨次以燈抄ハ一方ト云

一 曰十言及多事及 余八初至夜下ノ名是取ハ床

杓廻草と云ふ名し由

一 年日亦上破損佐リニ新所一丁目第子陸花来

自入ス馬島氏傳是若眼疾之目其

是又同人云菊村位第安キテ十廿五年以來之月

と云以是氣考与ニ十也抱多と

一 曰。此段ハ今カアリセし通リ

考六日午刻 以和向ハ尖上ニ有十一日ハ十三と云

停止し

一 曰自东條氏云航海録未ニ出ス

一 曰十考江ノ考ハ余ハ初夜方ハ林多ク取為下是

為来は是是船之諸アリ航海抄云ニ評也云云

果ス

一四日十八日東條宗左下云是十日自小名出と平令
田より八下と夜引道被遣つてあや浦と云はる所
分入し多し一町余大納一町空獲れ在りて三員
船後乗浦し以て多し改訂一年り俄に大船也
江戸へを運来して多し中なるは船也し江戸なる
又多し下系ハ是十町道也由云運而中るは
あつ同知し申是左外より遠く多し来たり
なるは多し海十町道後先是外へ買物出され
江戸見物也と云ふ

一四十九日江戸海軍と云ふ言初方也と菓子武

四下海保帆平

里見波へ今も品也と云同道なる也九里ハ
江戸言武若修行と存付是取極末
海保與人ハ海保里尺ハ轉送人

右南へ言定江戸と過る所見由又一人ハ石炭
おれし物極楽 是之を二不馬河下田と云ふ
を不取こし大概は守備も由又揚屋を接切
是人見分并子控出し家流あり航海船也二記セリ
二畧又又里取内海幸船海船下と陸必礼ありし由
餅を餅買つる者此を諸物と云ふ
餅貫交根子と云一ツ也又是し根子と云似今

夫人餅云い
前より此候
地よりアリ是
ハ異也

畑荒し云云あり
アリ

兵しきりしは是をうたふと
持まの角(葉)に云々あり
あけ多き水はつこもくや
是をみんつて上陸地なる
四羅抄に細く切かてて
る所地くも追立なる
はら捕得鳥所(の)界
日せしとわお弱方
し人とあえん方
海(は)にまゝつる
人(は)出陽(は)の
度(は)お

ナ日捕(由) 生禪航海始末 又は本(く) 是(人)ア(か)ス(は)

是物(は)て(は)く(は)大(は)三(は)更(は)ひ(は)地(は)切(は)し(は)一(は)も(は)役(は)立(は)ぬ
あし(は)と(は)云(は)ふ(は)又(は)は(は)交(は)互(は)に(は)知(は)れ(は)し(は)二(は)月(は)十(は)日(は)は(は)若(は)者(は)若(は)し(は)者(は)云(は)ぬ
中(は)説(は)く(は)水(は)流(は)る(は)と(は)ある(は)者(は)一(は)二(は)五(は)日(は)ハ(は)船(は)行(は)く(は)者(は)も(は)方(は)
く(は)此(は)書(は)後(は)伝(は)四(は)方(は)白(は)登(は)一(は)片(は)ハ(は)分(は)中(は)ヤ(は)ミ(は)ノ(は)時(は)り(は)者(は)も(は)
水(は)桶(は)有(は)り(は)水(は)自(は)由(は)是(は)六(は)部(は)を(は)く(は)一(は)水(は)行(は)海(は)に(は)行(は)ぬ
接(は)し(は)山(は)の(は)土(は)井(は)の(は)水(は)流(は)し(は)南(は)を(は)北(は)部(は)を(は)行(は)く(は)者(は)も(は)同(は)
相(は)と(は)云(は)ふ(は)又(は)信(は)人(は)羅(は)蘇(は)ト(は)云(は)者(は)も(は)船(は)を(は)る(は)書(は)を(は)か(は)り(は)て
草(は)の(は)用(は)七(は)本(は)煙(は)子(は)并(は)葉(は)子(は)未(は)切(は)り(は)由(は)又(は)是(は)人(は)兵(は)痕(は)

勝つ所を以て浦津云々薩あつても流勇と櫻井
野印祖と号する人あり此人の妻ありて
万一之節二用ひし斗平常ハ之勅ニ由也

一 一書り其の由し今江迄傳兵字今均云伝来之矣
船も其北の孫物不_レ用_レ新_レ兵_レ河津方し由

柏右社系譜ニ此所異人尚秘傳とす由

一 一書り十日江迄傳_レ於_レ浦津今試有と云て之由
是ハ二刀流を以て其後_レ傳_レ不_レ其傳二人其姓名忘
れ一人ハ二刀一人ハ二刀其由

一 一書り其の由し其民云々其由云云が古昔より
伝ふや敵の通_レりあし場_レ兵_レ三_レ百_レ土_レ敵_レあり
と云し之を以て交_レ星_レ人_レ傳_レ来_レ大_レ師_レ何_レ在_レ也(教_レ馬_レら
何_レ何_レ士_レ云_レ云_レもあ_レサ_レ同心_レ軍_レ人_レ斗_レむし由又_レ水_レ車
海_レ舟_レ何_レ備_レハ_レ其_レ品_レモ_レ手_レ厚_レ由_レ其_レ外_レ其_レ件_レノ_レ大_レ名_レ其_レ十_レ万_レ石
位_レハ_レ大_レ砲_レ二_レ三_レ十_レ月_レ軍_レ進_レ位_レノ_レ由_レナリ

一 一書り其の由し其民云々其由云云が古昔より
伝ふや敵の通_レりあし場_レ兵_レ三_レ百_レ土_レ敵_レあり
と云し之を以て交_レ星_レ人_レ傳_レ来_レ大_レ師_レ何_レ在_レ也(教_レ馬_レら
何_レ何_レ士_レ云_レ云_レもあ_レサ_レ同心_レ軍_レ人_レ斗_レむし由又_レ水_レ車
海_レ舟_レ何_レ備_レハ_レ其_レ品_レモ_レ手_レ厚_レ由_レ其_レ外_レ其_レ件_レノ_レ大_レ名_レ其_レ十_レ万_レ石
位_レハ_レ大_レ砲_レ二_レ三_レ十_レ月_レ軍_レ進_レ位_レノ_レ由_レナリ

一 一書り其の由し其民云々其由云云が古昔より
伝ふや敵の通_レりあし場_レ兵_レ三_レ百_レ土_レ敵_レあり
と云し之を以て交_レ星_レ人_レ傳_レ来_レ大_レ師_レ何_レ在_レ也(教_レ馬_レら
何_レ何_レ士_レ云_レ云_レもあ_レサ_レ同心_レ軍_レ人_レ斗_レむし由又_レ水_レ車
海_レ舟_レ何_レ備_レハ_レ其_レ品_レモ_レ手_レ厚_レ由_レ其_レ外_レ其_レ件_レノ_レ大_レ名_レ其_レ十_レ万_レ石
位_レハ_レ大_レ砲_レ二_レ三_レ十_レ月_レ軍_レ進_レ位_レノ_レ由_レナリ

一書り其の由し其民云々其由云云が古昔より
伝ふや敵の通_レりあし場_レ兵_レ三_レ百_レ土_レ敵_レあり
と云し之を以て交_レ星_レ人_レ傳_レ来_レ大_レ師_レ何_レ在_レ也(教_レ馬_レら
何_レ何_レ士_レ云_レ云_レもあ_レサ_レ同心_レ軍_レ人_レ斗_レむし由又_レ水_レ車
海_レ舟_レ何_レ備_レハ_レ其_レ品_レモ_レ手_レ厚_レ由_レ其_レ外_レ其_レ件_レノ_レ大_レ名_レ其_レ十_レ万_レ石
位_レハ_レ大_レ砲_レ二_レ三_レ十_レ月_レ軍_レ進_レ位_レノ_レ由_レナリ

跡形モナリ打し之不樹木と青中地トテハ一ツモ之ノ條
 藪と草と打落シテ又村中板ノ連表カ
 不赤骨ノ下カ好シ由茶種葉下ハ富ヲ分進キコテ
 猪身ノ形カ好シ 昨日武所ニテ 十日思山恒毛
三ノ五ノ名付進キテ求レト云
 此ノカ好シ 心果ニ 去所利カ好シ直七ト申定所猪口位
 電一ツ折系元ハ茶冬茶種位ニテノ不途中ニテ少
 解由カ好シ七八の位ノ電多ク降由又カ好シ
 前ニ四斗折ニツカシカ好シノ不此折ノ電一折積カ好シ
 又青林カ好シハ小供カ好シ怪我化カ好シ由三友田カ
 既カ好破シノ田カ好シ由 右カ好シモ 又草ノ折カ好シ表
左カ好シ
 連表ノ折ニ好シノ不ハ電ノ大サニ進キ墨ニ好シ又
 砂岩村カ好シ他ノ怪我大折カ好シ怪我カ好シ由又由
 二カ好カ好シ折下カ好シ小桶電カ好シ輪弱カ好シ水折
 カ好シ武ノ折カ好シ利カ好シカ好シカ好シカ好シカ好シ
 三カ好カ好シ付カ好シ也又雪隠編カ好シ山嶽ニ好シ三正カ好シ
 不三正カ好シ由一正カ好シト云又サトウ豆電カ好シ
 カ好シカ好シカ好シカ好シカ好シカ好シカ好シカ好シカ好シ
 石カ好シ内ナリカ好シ富作カ好シカ好シカ好シカ好シカ好シカ好シ

予所云はまゝなるをいふに雷降くといふは
畑に和な立し者ナリ和梅柿柚これらも
大いに由菜のなる者相も若菜も今秋は
あやしく五月梅餅あやしくなるは十枚位
にふたりはさす又上りまはらぐくあやしく
日せやく一西山川とさへなるもさく山梅
雷降く由之先起云新や仲也利光の白田作
こふ甘菊の種ト云又和谷村ハ一村ニ
る雷降く今もト云和谷村苗物打込し

予一葉多ハ白田ニ方ク甘菜七八寸斗
昔何村も苗物ト云ふ者有之七ハ甘菜種
此ニ種者ハ此菜ト云道州放之ニ云者ハ
由甘菜種も有之ニ云石段ノ種も其ノ
今二斗宛ニ有之ト云掃中ノ十枚位
其相ノ瓦割ト云一十三日ハ風流
心出之如墨ノ雲少ナクハ俄氷雷降出
位ニ雲晴風止日あり快晴多クハ
田中内村ニ有之向ノ村田ニ有之由
者多ク志ノ向ノ村田ニ有之由

大、其、者、三、三、正、
右大、其、
右大ニシツケ、
者ナリト云、又、
當、
日、
アケ、
ノ、
ト云、
ト云、

ノ如ク打ツ四五放ハ用立ト云其輕便ノ物ナリ是ヲ大、
ト云、
ト云、
ト云、

ノ、
夷人送葬、
是方、
テ役、
二人ノ、
務、
船、
三人、
レ、

献上ノ処は箱へ収メトヲミノ如ク片々回セバ米
ト糠^{アラカ}別ニ出テ調法ノ物ト云又夷人ハ大凡二粒ノ
面ノ由^{伊勢守云々云々夷人云々}又出火アリシニ夷人
一本ノ本持来リ火有場ニハ二本ニセハ七中ヨリ
子ホテ台^サ楷子^コナリト由又夷人^イ飯付^イ既^イノ
ヲ云之ニ^ハ飯ハ^ハ飯ノ由言シト又祝砲ノ日調練ノ
替昔古有之由此日長島ニテ夷人角力^カヲ由又先
年大坂所^{ナリ}大坂^ノ勅^ノ部^ノ甲^ノ洲^ニモ
即器心^ハ機^{ヨリ}是^テ常^ニ江^中諸^事我^等云々
騷^キノ中ニ只兩具ナクテハトカ^カノ^ノ為^具ヲ^ホリ
斗^リノ由又江^ノ船^ノ根^子所^ニテ大^名所^ノ主^人既^ク我
來^弱ク^カ來^流ク^ハ主^人弱^ク多^角上^下一^和セ
ス^ハ許^中モ^テ勇^者ハ^三分^一ト云由又カ^リラ^マ
教^ト云^モノ^夷人^ニカ^シ是^ハ邪^宗切^支丹^ノ名^ヲ
カ^ハタル^道ト云又紀伊^國生^シノ^漂流^人寅^吉トカ
者^ハ常^長崎^ノ送^ラシ^レ由又夷人^持來^大砲^皆
長^筒由又^号船^ニヨ^ギア^フン^報ノ^物多^ク持^來ル^ト
是^降炮^ヲ防^ク具^カト云

一廿日井内名三ノ浪云此船漢ハシヤ極其年大
銃口吹立ノ由ニテ先十五日を以て月令入ノ薩分南
部三春三ノ丸分陸炮誘き者一説ニ皆中半果
泊唯十九日也之漢ハ其船由

一廿二日直云此船アメリカ船一艘浦賀入ノ津由一説
ニ此船紀州漂流人寅若ヲ
送來ト船中七人ト主船由 又此船ハ上ノ降突
以旗示領ノ者ト云

一廿三日福王氏云此船アメリカ船一艘紀州廻リ有
傳地ノ種チ交ト乳ノ未タツ所也ナキ故ナキ必

此船ハ長ク早キ船ニシテ其日ヨリヨリ由

一七月九日由分メ通コアメリカ一艘浦賀ノ船來由

又廿四日由分メ渡セリト伝ノ由但五月分七月

大概ハ航海
以來ニ詳ニ云

一十日日赤立軒所谷田部を八段長を捕上ノ者
者ニテ公送方 呂捕ニ員付方下は年々不々上ノ船乞
ワタリニ由 二行トテ巡ラシム由

一十三年福王氏云此船一ノ丸也ノ薩分扱方ハ此ノ力
ラスニ有ル尤結城夜口ニ大ニハ情中懸コカラスニ

佐渡

用ヒレ又虎ノ為リ虎毒方ノモ思ふ教ムトノ由
又 菊君程ノ平水ノ久（虎毒）又（虎毒）ノ茶碗ノ
招ちて其ノ菓子ノ由也（お取ナリ）

一 堯五ノ方ニ有リ也云々京三修方ノ由也
本ノ由江ノ白濁ノお取也ノ由也次上下ノ由也
故人ノ尺外ノ是ハ狂人ト云レ由又 櫻分物ノ由也
京中ノ御方ノ由（一説是ハ天ノ由）又 老公ノ落分取ノ由也
三付物也ト云レ由也又 菓子取ノ由也ト云レ由也
物也ト云レ由也先以下内ノ由也物取ノ人與人

舟船ノ名船頭シ且捕ニ由（生ノハ脱海）

一 堯五ノ方ニ有リ也云々京三修方ノ由也
此ノ由也（お別忍）ノ菓子ノ由（一説ニ公田ニ由）
此ノ由也（十七方石）ノ菓子ノ由（一説ニ公田ニ由）

七月頃ヨリ十二月頃迄有用ノ事 大方航海

始末ニ載ニ三月頃迄ハ座右ニ目ノ筆記セ
シガ其後写本等ニテ忘タリシ三月後ハ手
紙ノ裏等ノ書付又ハ記憶ノ合ヲ演（卯）ニ
月廿日方記載ス知レ氏日ノ記セサレハ追テ
ハ難キ上ニ疎漏多キモノ也

一十二月廿四日晴 九半時以用名代扇之分取頼

山小普請指タルウ用トモ不存ユ一西隣家同

天知ラセス寛文仰ニ知セサルハ早ク吹聴ニ作クシトナリ

一町不残 遠山流分取 小山田軍平友 横山九ノ

小沢九ノ下名能平元 子物先ノ介 惣月 阜六五

尺美五ノ下 中山伍作 軒方平ノ久河内ノ名 代取除ク 小玉 福原ノ

中川五ノ下 里尾隆ノ介 後宮老 永市毛平 宗吉川

兵部兩平 市ノ元 平山兵元 少佐 隆在介 之為 隆

彦下ノ下 八ノ下 為玄民 柏原世元右下所ノ分

村田世分田見ノ分 子不友ノ介 取村 不金 取ノ下 解

午堀 吉東 林九ノ下 師名 分取ノ下 為地 高三ノ

伊内 隆平ノ下 老村 元老 平市ノ下 乃 近 為 平 友

夫取 市川 主 分取右止所ノ分

酒原 新三ノ下 元 尊久ノ元 先 為 官 元ノ下 府 越 友

夫 四ノ下 元 三ノ下 三 隆 友ノ 伊 為 八 元 夫 為 友ノ

山 為 友 師 飯 田 信 友以上十軒

人 別 祿 高 之 孝 山 為 友 取 取 山 之 友

香瓦發下所中ノ所
於本國ノ所
於本國ノ内ニ在ル所

妻

其健ノ所
當子十三年

三男万平

當子四年

人子四人

右ノ通ニ在リ

右白少切包あり包此上、妻付但ニ裸ノ子ハ別

ニキス姓名上ノ指石ニスル所ト記ス包あり

一廿方梳田云云 拙著ノ所ニ在リ 鞭用立

所存ニ在リ ありて天海ノ所感依写ル所又

は帝アメリカ船十艘 唐島 是ナリ 倭本内

一被南笑ノ入申條約ニ在リ 由 唐島十

カ浦笑ハ言説 又南春ノ所ノ口ニヤ 船六日出

ナリ 三艘ノ内物ノ海上イギリス船ニ逢ヒ 一艘逃去

テ大坂ノ内 又下内ノ地ニ在リ 駿河灘トカニテ舟

ヲ痛メ内ノ部田村ノ廻リ 修慶ト漁舟ヲタノニ舟

ヲモツテイラニ在リ 船ノ名 廻ルニ大凡大船ノ船

註文ノ人ニ在リ

子加漁舟と何方カ行方不知津浪ノ時云 右
三艘内二艘ハイキリスニ遊了ア何方ノ走ヤ
不知ト云 思フニ唐カ途中イキリスニモ不遊ニ艘ハ帰
又今ト三年も過キハイキリス私海上ニ遊了
ト高陽名も依テ三年迄為孔由 遊ナル
ロシヤ船ヲ云船修度ハ切岸ナラテハモキキヤ
ナリ 却田村ハ切岸カ最トノモトヤリ由

卯三月未承ルニ右船大羊テキ船ヲロシ及由長志間又廿四日云
右船ノ幕存役人由キ祖ロシヤノ送り返ルトノ爪夜又ハ
尾安ノ元テホカ船中東ロシヤノ同船船製製作學ノ如
ク遊了ト云修了ト云ノ如ク其夜

甲寅雜用帳書換 三月六日記

當年ヨリ五ト一上納ニナル

河津心扶
船本渡
依船
六七月十日

正月廿五日武之介初テ引道館ノ出ル但兵字
船昔古場也万平今日初テ又ス

二月朔日今日ヨリ八日廿八初ノ今日初午

同七日夜ヨリ武之介照山幸之助
四宮マキキ借住
口屋外ノ出キ代見

習
者ノ算術ヲ初ル

同八日武初テ五十騎場ヲ立

同十日三所目須原屋ヨリ塵劫記代云 求テ

武ニ遺ス

同十一日方武有方擇ニテ實名寛礼ト云以前
去尹八月頃余論語ヨリ選テ重任字ハ道遠
ト云

同廿三日友知ノ頭赤銅初王氏を所ニテ表ム

代六日ナリ 菅沼東ノ松ニ本梅一本遺ス

同廿五日之産物改元日方ノ武馬術初ム

同廿八日初子氏ノ李一本遺スツギホノタイト云

四月初日着屋ノ直次郎引越 此者上州生ニテ
實ノ儼也是古

方ノ家リ初也 ○貨物トナリニツ
家貨ヲ元初

同六日一所宮本長元方妻カカ樹テキル代ニ

百七ナリ

同九日産アリテ産物惣次男生ル鯉節ニ奉

祝ニヤル

同十一日直次下ノ表士手塗 此カカヤル

同十七日の卒れる有る也曹の職や行但し南
 病平愈直に死すも之をしし十七日の也
 有る也也下富士淺見ヲ祈リ今日ある也行
 右三日廿五日瓜ヲ下リ十六日月ハ削夕足洗フ
 在五年九月比とハ杖半をおおしと夜其
 後未行先止今日初テある也行直三年
 去十六日方右ノ眉中ノ命毛長三位見付ニ也

十月十日方トシレ

同十三日七時以余八枚ハ云

同十八日為者ハ小本二冊二冊画覽定ノ本ハ礼
ニヤル尤南日塩金袋ハ隠居ハ小本二冊ノ本五岳

真形ノ画掛物ツカワス

同十九日夜東條氏未セ死ニベイ四ナルク

線香二抱悔ニ遺ス遺

同廿二日井ガリ出来ル四宮借立代ニ方也

同廿三日井ガリ出来ル四宮借立代ニ方也

結園ノ後...

同廿七日在條(鉦)呼ばし同廿九日東條宗之久妻来ル

女月初日産惣初節旬上野中村大テト娘ニ付チリソニザコ四十八人

虫夏ス

同三日万裏ニテ竹筍ヲ初テ二本抜ク

同四日産惣次男初節旬ニ付ウバ見おキ神

ツカワス同廿日女ア氏用大召は先午と後午

同十日お屋おアト改名寛文お方お金ト四日十日

内四日ニ付上野雷神

ニテ歳一ツハラシ榮ト名ツケシヲ忘シ

居お思出せしれ今日改名シタルナリ

同十二日六九蚊帳新物求ひ竹寺あひ方以内

ニテ一ハク東ノ海東

同十三日午後雷鳴雷降ル女年酒泉新三市

氏ヲ教ニ天初下ノ鏡師ニテ出菜タル直櫓

金物同年一所目北側二間柄ニセシ越石突中身長ク

櫓櫓か、ラス今日ニ七寸柄ヲ直ラテ切詰サ

新三市

セタリ 酒年六 〇年日カニ箱一
茶箱ニツヤル

同十四日法衣ハ小角一菓子蓋二遺之此三品ハ天
保三三年頃二条大御言様駒込の藤中御見也 小石川ハ
御出節 金々亭ニハ菓子上ノ品也 此亦寛
文様ハ猪子方吟味役ニテハ掛リ故ハ御領也
定ニモ同物別ニアリ 同十五日ハ梅同十六日ハ初鯉アリ

昨日ヨリ實交常ニ用ヒノ桑ノ梳ヲ用ユ

昔ハ行遠ニテ實交ハ早死前々角ヒノハ食
器ハ用ヒテ乃知所不此家ハ送
之モハツ衣ヲ遺リノモハツハ皆ハ用ナシ
ハ用ヒマシキニハ食器ナク用ト云モ甚思心
ノ事トハ付ク故今日ハ角ヒノ向常ニノ
ハ相州盆モ今ト仕舞ヲキニツ出テ用ユ
同廿日産物七十八回ノ由重來ハ燗燗七十八

十四日遺之杖昼メシニヨル

同廿一日宮幸長系多る書物一あまハ代

ニテ七ナリ樹

同廿八日武初テ引込館見方ニ出武田先

六月八日山四十人前代二茶漬茶碗代二歌

又焼地五人前代三ソ六外下也あまハ代

物

同九月河津橋内取山十人頭格高名物也

之信也

同十一日煤拂

同十三日武兵字又時貝方今日宮本氏本

若杉一ウあまハ代ニ百七ナリ

同十三日武下帯衣今日初テ歸ル昔綿

八百箱也同十七日水術初

武本棉也

武本棉也

同十七日竹隅上町へ引越ニ付アヒ三十遺之

代百 同十九日上新雷神前ニテ七月廿五日ハ人出立津軒用人持赤井 昇他抄

同廿一日金剛院タノニ五色敷カコフカ神幣ハ便カ上リ

ノ家根裏直吹ニハヤリノ煩ヒシ者カウカ神ハ五色敷カ上リト
指シテ

同廿四日夜夢タニ来ル九月出カ且右三年ハ命

ニモツト云ラ夢云大恩ノノヲ記シヲキタシ也

同廿七日彦惣ノ宅ニテ武馬新神文外ニ同門カ六人但八時揃

佐ノ龜ニテ定ハ
集ル等出銅ニ百五文

七月廿日武引通館ニテ書物ハ吟味ニ出ル

同七日朝天子丸ノ刀藤吉ハイタハカセシネヲコリ落ル

同九日宮本ヨリ本家蓋出来九代六平四ノ

同十日はる三掃去月廿日ちあつゑ江戸定存ニ存

今日西の内カ本取モノアリ又之ニ遺ス同十二日四馬寺ノ木碑

同十九日はる中一平虫気ニ於テ紗糸編

新編八巻巻の終

為へ全快ヲ祈念シ全快ニ付カナルニ喜ヨル
同廿五日武水術見方ニ出ル賊船也

壬七月朔日九耳ノ命モヲ以テ刑落ス

同日直マラ然ニ健初子儀ノ行リ畑ノキウリニケニマケニス

同六日扇ノ分云上野ヲ仲有ル枕ナク者四方ニカ

他河

同廿七日和幸ト同ハハ切腹ハ七日夜ノナリ

者氏多ク代田畔陣中ニ居切腹ノ由昨日の姫物
スルハ延生物取ト云テ殺子ノ由切腹ト云
モ同也

一同七日陰木内玄民云云南都ノコシヤ「イギリス」フランス

「トル」ヲ戦闘ノ由フランス「イギリス」ハ接ト云

依之去冬ノ

蝦夷来着

航海始末中ニ
松前氏魚アリ

其物取ニ大砲ヲ射槍ホ飾

ヲキシモ捨テ帰国

住居ノ由
アル由不見

アメリカ船モ由ヲ聞急キ

退帆ノ由今日三所目須原屋分三國接壤國ヲ求代也

又直云今日大雷雨一由ニ在カニコトノ由云天文

ノ「」不知知ト大笑ス

一同十三日鏡虫干健初テ由日ヲカブル

一同十九日晴当君以冠ノ緒半分未

桐原兵吉ノ品カ
半分ハ初未ハ

代四也

健刀下緒云

初王ノ世話

一同廿日臨岐間ス振付刀永

南都為原ニテ外壇上

價五分朱羽

王氏世話白米之科遣シ桐原兵吉ト画像十四枚

管公成平ノ像

一同廿四日杉浦氏々不動丸ノ柄テキ来ル直ニ健使ニテ

白銀所由三ノタム

同八月二日柄テキル代言セテ

一同廿五日晴静明升ノ方ノ濕直ニテ当人ニ以庭マセ尚

又僧馬与積仙元ノ全快ノ上職之積皆祈念ス

一八月二日晴南都為原刀健使ニテ田中ノ平京ノ研

ヲタノム

但招中ニ付一八月十日
甚ルヲシ頼ム研テキル

一同七日劔甲新論先日聖堂張紙付ニ修写直ニ之キ

ト三所目須存元ノ以凡茅所須存元ノ下ノ由面木校

合ノ上今日健使ニテ須存元ノ在ノ直ニ写直ニ

高倉平ニテ及ニ取ト故

一同九日晴長峰ノ蘭人ノ御蒸元私

長十六
及トカノ宗習

ノ私命有テ菊池富太郎

ハル

ホ今夜ホ立一夜杉浦

氏後正勅お来テ打系ス

一同十二日初定刀ノ切羽

洞ナリ寛荘
ハ故古キ也

ヒツミヲ直ニ健使ニテ

此乃く我の祈所住居
先の同心

一同十九日為杉浦ヨリ初定柄テキ来レ送目貫ニ至ル
以景叶朝比奈氏ニ男ニ我の健使九月一日デキル
代三ノ世也

一同廿五日明初テ鮭賣ノ声アリ健栗ヲマク

一同廿七日此乃く不動丸切明テキ来レ又房ノ分取
同送ニテ健里見決メ分取ノ際初ル又健初ノ分取

ヨリ大人ノ持ク同我ノ房ヲ賣フ同廿八日ヨリ健隆
秋昔古ニキルは乃一万虫元お業モ湿道ニデキル

一同九月六日江戶東氏ノ返甲初論ノ席下ル

一同十四日健以送飯ニ於テヨリ見カ

一同十七日明以今お業湿内攻ニ付陸を船部ニ
祈禱由リ札竹隔々クシレ長石ノ者花十村迄又

一同十八日お業ニ用ルカ老物ノ半共異クシレ内攻ニハ
奇業ト云
水煎 今日健お江ノ船兵學見カ先乃お業内攻ノ方
大ニヨロシ

一同廿日明去雷并雷神ニテ祈禱吉沼ノ百姓マシテ
今上キ由ニテ健行テマシテ札ヲモロウ乃モ余モ同
以礼ニテ云ル

一同廿二日明一統ニ持カ方佛漸由ニ付取去ル今日
お漸あハル健者代ニテ迎以香丸儀カク取ル

小笠原の妻の行 三徳スル 此等余も得テキル

一同廿七日系本内云云先日大坂の口ニヤ船坊来由

一同廿九日万傳核へヒマ遣ス礼ニニるヤル

一十月一日晴淡石の祈禱の園ホ五七日に於て

カシキ飯々キ等ヲスル

一同三日カシキホノ女来意ノ者名ヲ誤ト云 多由姿ノ

一同四日蘭祇寺ニテ占ラス今日安ノコ

一同六日晴神農要論ノ刪作江尾氏ノ札先分宛テ

お今日下ル 云云 正感心由

一同十五日三日前方ノ濕内攻ノ事ニシテ虫テツガヒ大

ニ苦方ノ本内云云云云六ヶ方ノ為谷を小

取ノ事ありテ云云此等ノ札信等其ニ礼及ノ味

日今方多ク付鬼子母神ノ健首交余モ陸元ノ下全

快ニ上繪馬上ル積ニ祈念当又去留知者乃全快

ノ上ツ起テモ五尺縮新ノ全快ノ上健直片は

セツ礼ヲイノル

一十六日晴夜下フデキ本内ノ人遣ス 妻は其夫如 廿七

日今方多ク便ヲ教ヘス依テ助也先方ヲ祈ル教

くねぬら葉子上積是ハ七角花カシ上漸く也
下ノ内攻ニ言ち多ク十九日餘ハ其く湿度ニ先ッ
苦ツ方有リナル

一同十九日晴ッ知テキ立木代五女子
金方代三女又キ代二女子、メ九子

二月八日土月と 二十九日掛し此方万湿キリツエ出シ有キリある故大幣
代三十九日位毎日本ム又万ハせ魚ヲ好ニ焼ク取一日ニ七
疋位骨ノ併食ス
二十日晴冬至同四日大地震同昔大津波同八日夜
ヨリ三夜ノ間万キニ付裏稲荷ノお茶ハカカク同八日裏

所裏ニ居ル者虫封上キノ由テ下ノ虫封多ム此等ハ
一日ニ糸又ハ糸集位ツノ崩ス

一同土日時便処家上ツクロイノ多ク代ニ有セテ了ノ葉袋代

四ノ一ノ同十三日着ルノ者ニメシタキタム先日モシム
都合ニ交又今日武団子ヲ初テヨニライル

同十八日晴々々今日直ニカ付敷紙ノ中ノ葉袋入テ
夜中ニキテ其上ノ寐是ハ暖ニテスリ由

同廿五日晴葉袋立同廿四日晴晴々々

十二月十九日晴青物所小留也雨後 宇相尺ニ交是

土月廿五方有葉袋
云地有者ノ多ク
東出方ニシテ法大
冬葉袋ノ入是ニ
カ多クノ有葉袋
心此ハ葉袋ノ換
○由ニ有(由人
以テ有ハ三十一
万有ハ公迄ハ不
由ニ有ハ三十一

又云、北の方大
 坂の城斗落り七余
 の大火の由
 日光の事、是れ
 三弟の初日光也
 由虚説たる也

八、柏有北瓦余、厥亦、其方、字、和、一、事、毛、坊

之、如、ト、山、田、名、ノ、中、ハ、何、由、
柏有、ノ、姓、同、北、方、新、刀

刀、亦、鞘、テ、キ、柏、浦、ノ、面、リ、十、月、初、比、ハ、比、方、ハ、

万、子、ハ、セ、分、シ、ツ、ミ、ヲ、如、ク、板、打、移、ス、キ、ホ、ヲ、リ

一、同、北、方、院、ノ、南、昆、ノ、木、ノ、考、新、任、身、各、代、初

ノ、分、取、印、方、ノ、も、ろ、方、ノ、事、
今日上町三住取ニ

テ、世、間、葉、製、シ、ノ、名、人、由、余、カ、ノ、決、ヲ、吉、村、直

三、下、取、取、由、
二月比、之、不、今、日、来、レ、作、ル、餅、着、

以、ル、分、果、小、分、
右、廿、日、自、前、十、日、ハ、粉、葉、
 後、十、日、ハ、水、其、上、ヲ、用、ユ
 以上寅年历

上 齋 珊 瑚 珠 猪 漬 一 世
 二 万 三 千 工 居 城 北 雨 加
 私 安 四 年 蒙 古 大 殿 君 八 神
 義 柳 亞 来 著 ス 又 嘉 永 六 五
 上 喜 撰 四 版 行 渡 来 此 以 後 未

一、世、子、孫、實、地、事、種
 園、素、
美、濃、寺、思



桑、臥、樹、那、之、渡、景
 大、漸、
曾、白、野、川、
 水、鏡、子、ノ、所、
 昔、鏡、三、版、半

一、世、子、孫、實、地、事、種
 園、素、
美、濃、寺、思

テ世間抄製三ノ名人由余カ、疾ヲ吉村直
 三下及水由、二月以、之、今日來、ハ、ハ、餅着、
 九月廿日、前、十日、ハ、粉、葉、
 以上、寅、年、万、
 以上、寅、年、万、

北雨李加家

意國天皇後徹
 雨李加條喜撰入道
 郷秀齋二十代孫
 蘭姓後北雨海世

雨李加大隅守安泰男
 全居安元雨家北雨現

樂行 此北太血
 尾張守

國行 尾張守
 弓扇者矣

諸國 入道安心來
 莫南家男

國遠 志ノ守
 莫南家男

女子 湘賀伊守並
 女子 湘賀伊守並

京早 早献
 早献

安泰 甲斐守
 甲斐守

泰平 武藏守
 武藏守

春待 將國進奉
 將國進奉

不著丸
 不著丸

上裏賀御門中 江戸ヨリ
 元北之間 五月三日
 大海之間 意同舟渡奉
 四殿

雨李加甲斐守安泰
 御内室海岸大馬女長治治娘

御内室
 書翰三通拜偏遠所
 金銀若干 御臺馬
 水銀若干 須刃之錯
 寶百種物

雨李加不著丸
 泰將御暇之郎早献御注進番

御内室
 幸 白肉御守
 有金銀所
 二本共光三正

緇
 獅子ノ皮 五色羅沙 曠泉皮 國産類
 珊瑚珠 猪漬一罎 貴石、品 交惠キ品

一万三
 工居城北雨、加郷秀國
 弘安四年蒙古大敗著、神風三破九嘉永二酉年伊予
 義柳亞来著、又嘉永六丑年六月三日北雨李加列
 上喜撰四紙、竹渡来此以後未代、無来紙、

治宗派
 安台寺
 中奉收羽田
 中大交品川
 下芝 佃島
 下洲寄中川沖

陳各伊勢
 野陣播磨
 寺社内借人
 因 現重郎
 番野貫木
 中各根津
 蚊 来禮
 四殿北右工門
 鍛治各音之進
 大劔砥右門

武具求金右門
 馬具司茂字毛
 勤番成之進
 大馬新親之助
 武藝磨吉郎
 武器新太郎
 甲冑求女

御内室
 幸 白肉御守
 有金銀所
 二本共光三正

緇
 獅子ノ皮 五色羅沙 曠泉皮 國産類
 珊瑚珠 猪漬一罎 貴石、品 交惠キ品

一万三
 工居城北雨、加郷秀國
 弘安四年蒙古大敗著、神風三破九嘉永二酉年伊予
 義柳亞来著、又嘉永六丑年六月三日北雨李加列
 上喜撰四紙、竹渡来此以後未代、無来紙、

又云... 城斗... 七...

八... 柏... 石... 此... 瓦... 余... 疾... 亦... 可... 法... 方... 之... 如... 一... 萬... 七... 坊

由三日...

全... 京... 西... 東... 山... 南... 雨... 李... 亦... 大... 斷... 也... 連... 重...	蘭... 蘇... 丹... 中... 斷... 也... 雨... 李... 亦... 大... 斷... 也... 連... 重...	淵... 水... 氣... 二... 十... 五... 雨... 李... 亦... 大... 斷... 也... 連... 重...	意... 國... 天... 皇... 對... 册...
---	---	---	-------------------------------



大... 盛... 之... 間... 永... 此... 之... 間... 五... 六... 月... 三... 日... 上... 東... 宮... 南... 門... 中... 辰... 十... 八... 日...	雨... 李... 亦... 大... 斷... 也... 連... 重... 中... 州... 四... 州... 大... 盛... 之... 間... 永... 此... 之... 間... 五... 六... 月... 三... 日... 上... 東... 宮... 南... 門... 中... 辰... 十... 八... 日...	山... 南... 雨... 李... 亦... 大... 斷... 也... 連... 重... 中... 州... 四... 州... 大... 盛... 之... 間... 永... 此... 之... 間... 五... 六... 月... 三... 日... 上... 東... 宮... 南... 門... 中... 辰... 十... 八... 日...	山... 南... 雨... 李... 亦... 大... 斷... 也... 連... 重... 中... 州... 四... 州... 大... 盛... 之... 間... 永... 此... 之... 間... 五... 六... 月... 三... 日... 上... 東... 宮... 南... 門... 中... 辰... 十... 八... 日...
--	--	--	--

大... 驗... 四... 州... 中... 州... 番... 理... 手... 球... 雁... 報...

